



Japanese Congress
for Infrastructure Management

Fact Book

2024-2025

インフラメンテナンス国民会議
ファクトブック

インフラメンテナンス国民会議ホームページ

インフラメンテナンス国民会議

検索



インフラメンテナンス国民会議(JCIM)事務局

hqt-jcim-sogo@gxb.mlit.go.jp

2025年3月発行



インフラメンテナンス国民会議

インフラメンテナンス 国民会議とは

インフラは豊かな国民生活、社会経済を支える基盤です。老朽化するインフラが急増するなかで、施設管理者は限られた予算のなかで対応しなければなりません。そのため、インフラメンテナンスを効率的、効果的に行う体制を確保する必要があります。

また、豊かな国民生活を送る上でインフラメンテナンスは国民一人ひとりにとって重要なものです。

そこで、インフラを良好な状態で持続的に活用するために、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、インフラメンテナンスの理念の普及、課題の解決及びイノベーションの推進を図り、活力ある社会の維持に寄与することを目的に平成28年11月に「インフラメンテナンス国民会議」は設立しました。

インフラメンテナンス 国民会議の目的

- 1 革新的技術の発掘と社会実装
- 2 企業等の連携の促進
- 3 地方自治体への支援
- 4 インフラメンテナンスの理念の普及
- 5 インフラメンテナンスへの市民参画の推進

Fact Book

2024-2025

INDEX

インフラメンテナンス国民会議について	01
沿革	01
活動の拡がり	02
推進体制	03
主要な活動	
令和6年度 インフラメンテナンス国民会議総会	07
社会インフラテック2024	08
第1部:地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)とインフラメンテナンス最新情報	09
第2部:SIPスマートインフラ特別講演/未来を支えるスマートインフラマネジメントシステム	
道路メンテナンスの3巡目点検に着手	10
海外市場展開フォーラムの取り組みと海外展開事例紹介	11
高専生が経営トップに聞くインフラメンテナンス第3弾	12

インフラメンテナンス市区町村長会議	13
北海道ブロック	14
東北ブロック	15
関東ブロック	16
北陸ブロック	17
中部ブロック	18
近畿ブロック	19
中国ブロック	21
四国ブロック	22
九州・沖縄ブロック	23

公認フォーラム	
革新的技術フォーラム	24
自治体支援フォーラム	25
技術者育成フォーラム	26
市民参画フォーラム	30
海外市場展開フォーラム	32

公認フォーラム(地方フォーラム)	
北海道フォーラム	33
東北フォーラム	35
関東フォーラム	38
北陸フォーラム	40
中部フォーラム	42
近畿本部フォーラム	46
「ちゅうごく」(中国フォーラム)	55
四国地方フォーラム	63
九州フォーラム	69
沖縄フォーラム	72

第8回インフラメンテナンス大賞	73
-----------------	----

インフラメンテナンス国民会議について

沿革

平成24年	7月25日	国土交通大臣から社会資本整備審議会会長及び交通政策審議会会長あて「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」の諮問
	7月31日	第9回社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会（以下 技術部会）・社会資本メンテナンス戦略小委員会の設置
	12月2日	中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故
平成25年		「社会資本メンテナンス元年」として位置付け
	1月21日	社会資本の老朽化対策会議 設置
	1月30日	社会資本メンテナンス戦略小委員会緊急提言
		「本格的なメンテナンス時代に向けたインフラ政策の総合的な充実～キックオフ「メンテナンス政策元年」～」(大臣への手交)
	3月21日	社会資本の老朽化対策会議
		・「社会資本の維持管理・更新について当面講ずべき措置」決定
	5月30日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」中間答申(大臣への手交)
	10月4日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 設置
	11月29日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議
		・「インフラ長寿命化基本計画」決定
	12月25日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」答申
平成26年	5月21日	社会資本の老朽化対策会議 ・「国土交通省インフラ長寿命化計画(行動計画)」決定
平成27年	2月27日	技術部会「社会資本のメンテナンス情報に関わる3つのミッションとその推進方策」提言
		・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設置 等提言
	6月30日	「日本再興戦略改訂2015-未来への投資・生産性革命-」閣議決定
		・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立 位置付け
平成28年	11月27日～ 12月16日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた意見交換会(第1回)の実施 ・約80の企業・団体から意見をヒアリング
	4月15日～ 4月27日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた意見交換会(第2回)の実施
		・国民会議の青写真をもとに約70の企業・団体と意見交換
	6月2日	「日本再興戦略2016-第4次産業革命に向けて-」閣議決定
		・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設置 位置付け
	7月29日	政務官勉強会提言
		・「インフラメンテナンスの加速化」提言
	6月2日～ 9月29日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の創設 位置付け インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた準備会の実施
		・国民会議の運営に参加したい企業・団体と、具体的な組織や実施事項について検討開始
		・各種部会、フォーラム準備会により、検討内容、進め方等について議論(延べ11回開催)
	11月28日	インフラメンテナンス国民会議設立
平成29年	7月24日	平成29年度インフラメンテナンス国民会議総会(第1回インフラメンテナンス大賞表彰式と同日開催)
平成30年	4月	全国10地域で地方フォーラムが設立
	8月9日	第2回インフラメンテナンス大賞表彰式
	12月6日	平成30年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2018開会式と同日開催)
令和元年	11月7日	第3回インフラメンテナンス大賞表彰式開催
	12月4日	令和元年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2019ステージにて開催)
令和3年	1月8日	第4回インフラメンテナンス大賞表彰式開催
	12月8日	令和2年度インフラメンテナンス国民会議総会(メール開催) 令和3年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2021ステージにて開催)
令和4年	1月21日	第5回インフラメンテナンス大賞表彰式開催
	4月28日	インフラメンテナンス市区町村長会議設立
	12月7日	令和4年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2022 ステージにて開催)
令和5年	1月13日	第6回インフラメンテナンス大賞表彰式開催
	5月26日	インフラメンテナンス市区町村長会議全国大会開催(公益社団法人土木学会と連携協定を締結)
	12月6日	令和5年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2023 ステージにて開催)

令和6年

1月18日
1月22日
12月4日

第7回インフラメンテナンス大賞 内閣総理大臣賞、各省大臣賞、特別賞表彰式開催
第7回インフラメンテナンス大賞 優秀賞表彰式開催
令和6年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2024 ステージにて開催)

令和7年

1月16日
1月27日

第8回インフラメンテナンス大賞 内閣総理大臣賞、各省大臣賞表彰式開催
第8回インフラメンテナンス大賞 特別賞、優秀賞表彰式開催

活動の拡がり

会員は、国民会議の趣旨に賛同して十分な意欲を持って活動に参画していただける企業、団体、行政機関(国を除く)又は個人による正会員とし、正会員については、入会の手続きを経て会員の資格を取得することとしています。

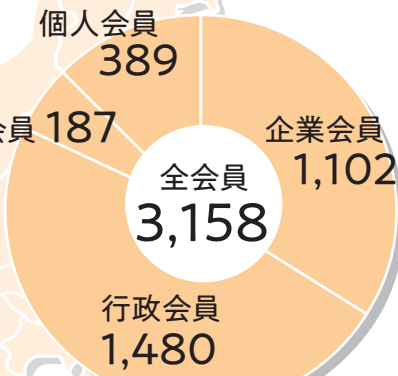
そのほか、国民会議運営のために会員の推薦によりご入会いただく特別会員や、活動以外の形態により国民会議に協力をいただく賛助会員があります。

参加会員内訳

会員種別	設立時(H28.11.28)	現在(R7.3.24)	増加数
企業会員	95	1,102	1,007
行政会員	73	1,480	1,407
団体会員	27	187	160
個人会員	4	389	385
計	199	3,158	2,959

全国の10ブロックにおいて地方フォーラムを設置し、企業、団体、行政機関、又は個人による国民会議の会員の輪、更に、市区町村長会議の設立により、インフラメンテナンスに高い関心を持つ市区町村長の輪は、全国へ拡がりをみせています。

地方特有の課題を踏まえた特色ある取り組みも含め、精力的に地方での活動を進めています。



会員内訳 (R7.3.24)

市区町村長会議地方ブロック毎 会員数内訳 (R7.3.24)

北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	合計
179	227	93	55	89	124	75	95	258	1,195

推進体制

推進体制

国民会議の活動については、国民会議の趣旨に賛同し活動に意欲のある企業、研究機関、施設管理者、市民団体等の会員にメリットのある活動を会員の主体的な運営により行うこととし、会員により構成される実行委員会、各部会、各フォーラム企画委員会を設け、運営を行います。

総会 国民会議 会員(令和7年3月24日時点)3,158者(企業1,102、行政1,480、団体187、個人389)

会長



富山 和彦

株式会社IGPIグループ 会長
株式会社
日本共創プラットフォーム
代表取締役社長

副会長



家田 仁

政策研究大学院大学
特別教授

実行委員会

国民会議全体の運営

■実行委員長

大島 邦彦 (株)熊谷組

■実行委員

阿部 雅人
(株)ベイスコンサルティング

岩城 一郎
日本大学

岩佐 宏一
(公社)日本ファシリティマネジメント協会

大石 健二
パシフィックコンサルタンツ(株)

大堀 正人
(株)日立ソリューションズ

奥田 早希子
(一社) Water-n

片岡 信之
(一社)国土政策研究会

笹谷 達也
日本ヒューム(株)

沢田 和秀
岐阜大学

鈴木 泉
(株)ガイアート

高山 保
(株)土木管理総合試験所

田村 裕美
(一社)ソーシャルテクニカ

永田 善裕
リノブリッジ(株)

中谷 孔右
(株)エコワーク

羽鳥 徹
富士フィルムビジネスイノベーション(株)

藤原 鉄朗
(一社)建設コンサルタンツ協会

森尾 宣紀
長崎市

吉田 典明
日本工営都市空間(株)

若木 和雄
日進工業(株)

企画部会

インフラメンテナンスに関する企画等

■部会長

岩井 聖 国土交通省

■部会委員

阿部 雅人 (株)ベイスコンサルティング

大石 健二 パシフィックコンサルタンツ(株)

大島 邦彦 (株)熊谷組

奥田 早希子 (一社) Water-n

片岡 信之 (一社) 国土政策研究会

笹谷 達也 日本ヒューム(株)

鈴木 泉 (株)ガイアート

高山 保 (株)土木管理総合試験所

田村 裕美 (一社) ソーシャルテクニカ

永田 善裕 リノブリッジ(株)

中谷 孔右 (株)エコワーク

藤原 鉄朗 (一社) 建設コンサルタンツ協会

森尾 宣紀 長崎市

若木 和雄 日進工業(株)

称津 知広 国土交通省

佐々木 博樹 国土交通省

吉田 健太 国土交通省

笠井 良真 国土交通省

広報部会

インフラメンテナンスの理念普及、国民会議の広報

■部会長

永田 善裕 リノブリッジ(株)

■部会委員

奥田 早希子 (一社) Water-n

田子 裕子 大日本印刷(株)

吉田 健太 国土交通省

笠井 良真 国土交通省

■幹事

小林 大 大日本ダイヤコンサルタント(株)

那珂 通大 ニチレキ(株)

インフラメンテナンス市区町村長会議

●首長同士の意見交換による知見や意識の向上 ●社会に対するインフラメンテナンスの必要性の啓発

1

ブ北海道

2

ブ東北

3

ブ関東

4

ブ北陸

5

ブ中部

6

ブ近畿

7

ブ中国

8

ブ四国

9

ブ九州・沖縄

詳細は5・6ページ参照

公認フォーラム

革新的技術フォーラム

オープンイノベーションによる異業種の連携や技術の融合、マッチング

■リーダー

称津 知広 国土交通省

■企画委員

岩佐 宏一 (公社)日本ファシリティマネジメント協会

大堀 正人 (株)日立ソリューションズ

羽鳥 徹 富士フィルムビジネスイノベーション(株)

笹谷 達也 日本ヒューム(株)

秋本 雅司 (株)島津製作所

山本 康弘 能美防災(株)

熊倉 信行 東芝環境ソリューション(株)

杉崎 光一 (株)ベイスコンサルティング

小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ(株)

小村 和司 (株)日立製作所

菅野 智行 (株)日立製作所

小林 大 大日本ダイヤコンサルタント(株)

若木 和雄 日進工業(株)

佐々木 博樹 国土交通省

笠井 良真 国土交通省

自治体支援フォーラム

自治体の課題解決、自治体のニーズ・民間企業等のノウハウの情報交換

■リーダー

岩井 聖 国土交通省

■企画委員

岩佐 宏一 (公社)日本ファシリティマネジメント協会

片岡 信之 (一社) 国土政策研究会

鈴木 泉 (株)ガイアート

高山 保 (株)土木管理総合試験所

藤原 鉄朗 (一社) 建設コンサルタンツ協会

森尾 宣紀 長崎市

佐々木 博樹 国土交通省

笠井 良真 国土交通省

技術者育成フォーラム

地域における技術者育成の活動を支援

■リーダー

鈴木 泉 (株)ガイアート

■企画委員

中谷 孔右 (株)エコワーク

小宮山 直久 (株)三菱総合研究所

柏 貴裕 (株)三菱総合研究所

岩佐 宏一 (公社)日本ファシリティマネジメント協会

渡邊 大介 (株)ガイアート

高山 保 (株)土木管理総合試験所

岩井 聖 国土交通省

佐々木 博樹 国土交通省

笠井 良真 国土交通省

市民参画フォーラム

インフラやメンテナンスへの関わりを深めるための実践活動を展開

■リーダー

岩佐 宏一 (公社)日本ファシリティマネジメント協会

■企画委員

世古 一穂 NPO研修・情報センター

鈴木 泉 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会

駒田 智久 土木学会シビルNPO推進小委員会

岡野 登美子 アイセイ(株)

田中 努 シビルNPO連携プラットフォーム

本間 順 (株)駒井ハルテック

奥田 早希子 (一社) Water-n

森尾 宣紀 長崎市

海外市場展開フォーラム

海外への情報発信や海外展開案件形成

■企画委員

館 健一郎 国土交通省

今井 孝充 (株)フジタ

大島 邦彦 (株)熊谷組

小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ(株)

武田 大輔 (株)アイ・エス・エス

橋詰 健 (一社) PPP推進支援機構

地方フォーラム (詳細は5・6ページ参照)

1

北海道フォーラム

2

東北フォーラム

3

関東フォーラム

4

北陸インフラメンテナンスフォーラム

5

中部フォーラム

6

近畿本部フォーラム

7

「ちゅうごく」(中国フォーラム)

8

四国地方フォーラム

9

九州フォーラム

10

沖縄フォーラム

国(国土交通省および関係省庁)

インフラメンテナンス市区町村長会議

■代表幹事 東京都稲城市長 高橋 勝浩

1 北海道ブロック

■ブロック幹事

北海道 網走市長 水谷 洋一

■企画委員

北海道 札幌市長 秋元 克広

北海道 函館市長 大泉 潤

北海道 旭川市長 今津 寛介

北海道 釧路市長 鶴間 秀典

北海道 帯広市長 米沢 則寿

北海道 網走市長 水谷 洋一

北海道 留萌市長 中西 俊司

北海道 稚内市長 工藤 広

北海道 倶知安町長 文字 一志

北海道 白老町長 大塩 英男

2 東北ブロック

■ブロック幹事

岩手県 宮古市長 山本 正徳

■企画委員

青森県 八戸市長 熊谷 雄一

岩手県 宮古市長 山本 正徳

宮城県 白石市長 山田 裕一

秋田県 秋田市長 穂積 志

山形県 山形市長 佐藤 孝弘

福島県 南相馬市長 門間 和夫

3 関東ブロック

■ブロック幹事

東京都 稲城市長 高橋 勝浩

■企画委員

茨城県 龍ヶ崎市長 萩原 勇

栃木県 下野市長 坂村 哲也

群馬県 安中市長 岩井 均

埼玉県 春日部市長 岩谷 一弘

千葉県 木更津市長 渡辺 芳邦

東京都 稲城市長 高橋 勝浩

神奈川県 厚木市長 山口 貴裕

山梨県 甲府市長 樋口 雄一

長野県 大町市長 牛越 徹

4 北陸ブロック

■ブロック幹事

富山県 氷見市長 菊地 正寛

■企画委員

新潟県 新潟市長 中原 八一

富山県 氷見市長 菊地 正寛

石川県 かほく市長 油野 和一郎

5 中部ブロック

■ブロック幹事

岐阜県 大野町長 宇佐美 晃三

■企画委員

岐阜県 大野町長 宇佐美 晃三

静岡県 静岡市長 難波 喬司

愛知県 豊川市長 竹本 幸夫

三重県 南伊勢町長 上村 久仁

6 近畿ブロック

■ブロック幹事

兵庫県 養父市長 大林 賢一

■企画委員

福井県 鯖江市長 佐々木 勝久

滋賀県 大津市長 佐藤 健司

京都府 京田辺市長 上村 崇

大阪府 東大阪市長 野田 義和

兵庫県 養父市長 大林 賢一

奈良県 宇陀市長 金剛 一智

和歌山県 和歌山市長 尾花 正啓

7 中国ブロック

■ブロック幹事

岡山県 総社市長 片岡 聡一

■企画委員

鳥取県 鳥取市長 深澤 義彦

島根県 益田市長 山本 浩章

岡山県 総社市長 片岡 聡一

広島県 呉市長 新原 芳明

山口県 周南市長 藤井 律子

8 四国ブロック

■ブロック幹事

高知県 須崎市長 楠瀬 耕作

■企画委員

徳島県 美波町長 影治 信良

香川県 坂出市長 有福 哲二

愛媛県 西条市長 高橋 敏明

高知県 須崎市長 楠瀬 耕作

9 九州・沖縄ブロック

■ブロック幹事

熊本県 熊本市長 大西 一史

■企画委員

福岡県 柳川市長 金子 健次

佐賀県 武雄市長 小松 政

長崎県 長崎市長 鈴木 史朗

熊本県 熊本市長 大西 一史

大分県 日田市長 掠野 美智子

宮崎県 宮崎市長 清山 知憲

鹿児島県 鹿屋市長 中西 茂

沖縄県 浦添市長 松本 哲治

地方フォーラム

1 北海道フォーラム

■リーダー

高野 伸栄 北海道大学大学院工学研究院

■企画委員長

栗田 悟 (一社)北海道建設業協会

■企画委員

岡本 淳敏 勇建設 (株)

中島 英治 伊藤組土建 (株)

北見 実敏 伊藤組土建 (株)

新沼 寛明 伊藤組土建 (株)

河村 巧 岩田地崎建設 (株)

横山 隆 (株)開発工営社

高宮 則夫 NPO法人公共環境研究機構

植村 豊樹 (株)構研エンジニアリング

伊藤 捨雄 コンクリート鋼構造物超耐久化工法研究会

嵯峨 輝幸 嵯峨秀栄測量設計 (株)

西川 忠 札幌市立大学

中里 修二 サンエスホールディングスグループ

伊藤 公彦 (株)シビテック

工藤 理恵子 積水ハウス (株)

加藤 貴博 (株)ダイヤコンサルタント

山田 雄一 地崎道路 (株)

深見 純 (株)ティーネットジャパン

松井 伸頼 東亜道路工業 (株)

竹内 正志 (株)東京設計事務所

太田 隆文 (株)ドーコン

向井 直樹 (株)ドーコン

山本 一彦 (株)ドーコン

阿部 幸康 (株)土木技術コンサルタント

大石 学 (株)中山組

高橋 守人 西江建設 (株)

縄田 健志 西江建設 (株)

三井 功如 西松建設 (株)

内海 正徳 ニチレキ (株)

古橋 浩太 日鉄物産 (株)

渡辺 佳樹 ニチレキ (株)

沼田 寛 (株)ノース技研

横山 利成 北王コンサルタント (株)

青野 純也 北電総合設計 (株)

盛山 拓也 (株)メイセイ・エンジニアリング

■オブザーバー

大堀 正人 (株)日立ソリューションズ

2 東北フォーラム

■リーダー

石川 雅美 東北学院大学

■企画委員長

遠藤 敏雄 (株)復建技術コンサルタント

■企画委員

小野 泰太郎 (株)小野建築研究所

野木 雄治 (株)小野工業所

阿部 裕彰 (株)中央コーポレーション

新銀 武 東亜道路工業 (株)

前原 弘宣 東亜道路工業 (株)

今野 光博 東亜道路工業 (株)

中村 寛 中東建設 (株)

石倉 武幸 戸田建設 (株)

高橋 秀輔 ニチレキ (株)

阿部 亮介 パシフィックコンサルタンツ (株)

東 洋平 (株)福富組

小笠原 光博 (株)フジタ

林 昭宏 (株)フジタ

後藤 和彦 (株)復建技術コンサルタント

齋藤 一人 三共 (株)

■オブザーバー

阿部 雅人 (株)ベシスコンサルティング

大石 健二 パシフィックコンサルタンツ (株)

田村 裕美 (一社)ソーシャルテクニカ

3 関東フォーラム

■リーダー

長山 智則 東京大学

■企画委員長(幹事)

柳澤 正和 (株)赤城商會

■企画委員

平野 圭 (株)クリエイト

黒田 卓也 オムロンソーシアルソリューションズ (株)

松原 直行 前田建設工業 (株)

関屋 隆司 (株)フジタ

鈴木 健彦 八千代エンジニアリング (株)

野田 一弘 八千代エンジニアリング (株)

高馬 克治 ニチレキ (株)

小林 大 大日本ダイヤコンサルタント (株)

穴甘 康広 富士通 (株)

木下 史朗 木下建工 (株)

富川 哲 東急建設 (株)

若木 和雄 日進工業 (株)

松井 健明 東亜道路工業 (株)

井口 達也 (株)土木管理総合試験所

堀米 剛 青木あすなろ建設 (株)

■オブザーバー

高山 保 (株)土木管理総合試験所

4 北陸インフラメンテナンスフォーラム

■リーダー

丸山 久一 長岡技術科学大学

■企画委員

嶋田 浩一 (株)熊谷組

池田 省吾 ニチレキ (株)

若尾 明弘 (株)中央コーポレーション

湯川 雅昭 三和ボーリング (株)

木下 史朗 木下建工 (株)

小林 徹 (株)レックス

田村 康裕 開発技建 (株)

脇坂 哲也 大日本ダイヤコンサルタント (株)

菅谷 輝彦 (株)国土開発センター

浦田 孔二 (株)日本海コンサルタント

中西 太 東亜道路工業 (株)

■オブザーバー

大島 邦彦 (株)熊谷組

鈴木 泉 (株)ガイアート

5 中部フォーラム

■リーダー

原田 和樹 日本工営都市空間 (株)

■企画委員

鈴木 正樹 中央コンサルタンツ (株)

安立 寛 (株)オリエンタルコンサルタンツ

内山 真人 (株)オリエンタルコンサルタンツ

那須 聖志郎 大日コンサルタント (株)

杉原 啓介 大日コンサルタント (株)

中村 亮太 大日コンサルタント (株)

榮 義彦 日本工営都市空間 (株)

角川 智哉 日本工営都市空間 (株)

名知 幹弘 中央コンサルタンツ (株)

古澤 栄二 (株)テイコク

田中 実 東亜道路工業 (株)

大谷 直弘 東亜道路工業 (株)

中村 浩二 戸田建設 (株)

伊藤 貴宏 戸田建設 (株)

田口 克也 ニチレキ (株)

山本 康博 ニチレキ (株)

吉田 典明 日本工営 (株)

沼田 良輝 ホーメックス (株)

水津 紀陽 八千代エンジニアリング (株)

伊藤 均 八千代エンジニアリング (株)

■オブザーバー

奥田 早希子 (一社) Water-n

中谷 孔右 (株)エコワーク

吉田 典明 日本工営 (株)

6 近畿本部フォーラム

■リーダー

片岡 信之 (一社)国土政策研究会

■企画委員

霜上 民生 (一社)国土政策研究会

宮原 正和 (一社)国土政策研究会

東 定生 (一社)国土政策研究会

福岡 成和 (一社)国土政策研究会

河野 千代 (一社)国土政策研究会

板倉 信一郎 (一社)国土政策研究会

新田 耕司 (一社)国土政策研究会

楠本 博 (一社)国土政策研究会

印南 亮一 (一社)国土政策研究会

岡崎 創太郎 (一社)国土政策研究会

多田 成宏 (一社)国土政策研究会

西岡 勉 (一社)国土政策研究会

長澤 次郎 (一社)国土政策研究会

川村 勝 (一社)国土政策研究会

郭 慶煥 (一社)国土政策研究会

坂野 昌弘 (一社)国土政策研究会

川上 隆 (一社)近畿建設協会

宮崎 勝敏 (公財)大阪府都市整備推進センター

7 「ちゅうごく」(中国フォーラム)

■リーダー

藤井 堅 広島大学

■メンター

宮本文穂 山口大学

■企画委員

藤井 友行 復建調査設計 (株)

林 浩範 大林道路 (株)

狩屋 雅之 岡山県立岡山工業高等学校

野口 豪介 (株)ガイアート

前土井 寛之 格正建設 (株)

紀 淳 (株)熊谷組

秋田 英次 山陽ロード工業 (株)

武若 耕司 NPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会

高野 輝浩 戸田建設 (株)

廣田 和道 戸田建設 (株)

井上 智章 ニチレキ (株)

若木 和雄 日進工業 (株)

清水 祐介 富士通 (株)

竹川 眞理子 富士通Japan (株)

天満 真士 復建調査設計 (株)

丹羽 健介 (株)Roop's

■オブザーバー

鈴木 泉 (株)ガイアート

中谷 孔右 (株)エコワーク

8 四国地方フォーラム

■リーダー

主要な活動

令和6年度インフラメンテナンス国民会議総会

インフラメンテナンス国民会議は、我が国の全てのインフラメンテナンスの円滑な実施を目標とし、それを支援するために必要な産学官民のプラットフォームを運営するとともに、インフラメンテナンスの円滑な実現に向け必要な事業を行っています。



古川 康氏（国土交通副大臣）



大島 邦彦（国民会議実行委員長）

人手不足・人口減少の中で高まるインフラメンテナンスの困難度と重要性



富山 和彦

インフラメンテナンス国民会議
会長

国民会議では「地方自治体への支援」を重要な目的の一つとしている。令和5年に協定が締結された市区町村長会議と土木学会との連携活動は、技術者不足が非常に大きな問題となっている自治体にとって極めて重要な意味をもっている。笹子トンネルの事故から12年経ってもご遺族の悲しみが癒えない状況を拝察して、このインフラメンテナンスの責任の重さを痛感した次第である。

石破総理は地方創生を非常に重視しており、防災との脈略でインフラメンテナンスにも非常に重い問題意識を持っている。私も政府の主催する会議のメンバーとなっているので、そのような場所でインフラメンテナンスの重要性を色々な形で訴えていきたい。

現場を担っていくインフラメンテナンスも含め、人手不足が非常に深刻な問題である一方で、激甚災害が増えたり、人口減少の中でインフラメンテナンスの困難度と重要性が同時に増している状況である。今後国民会議の活動を更に活発にしていかなければならないし、本日お集まりいただいた皆様方、この国民会議に協力していただいた方に改めて御礼申し上げたいとともに、ますます今後もこの運動を活発化するべく、ご協力をお願いしたい。

群マネでは技術者が横に繋がり水平連帯をとることが重要に



家田 仁

インフラメンテナンス国民会議
副会長

群マネは東になってかろうという意味。群マネにはいろいろなレイヤーがあるが、一つは発注側の視点に立った自治体同士がまとまること。二つ目は、地域の建設業者がまとまること。もう一つは人（技術者）がまとまることであり、これができなければ何も始まらない、最も重要なことと考えている。技術者が横に繋がり水平連帯をとるとということが重要である。

この国民会議も、笹子トンネルの事故後につくられた委員会であり、国民の全面的な理解と協力が必要で、総力戦であたらないとこの国は大変なことになるという考え方から誕生した。新技術と自治体とのマッチングも重要だが、まだまだ手がついていないのが、自治体の技術者同士を繋げ、それを市民とも繋げることであり、これからまだまだ頑張らなければいけない余地がある。

また、「インフラメンテナンス」という名前でスタートしているが、メンテナンスにとどまらないインフラのマネジメントであり、「インフラマネジメント国民会議」にそのうち名前を変えてもいいのではと思っている。

私もこれまで10年近く国民会議に関わっており、そろそろ後進に道を譲ってと思うが、それまでの間全力で頑張りたいと思う。

日時 令和6年12月4日（水）13:00～13:40

場所 東京ビッグサイト東4ホール
カンファレンスステージ

プログラム

開会挨拶

富山 和彦（国民会議会長／
株式会社IGPIグループ会長）

祝辞

古川 康（国土交通副大臣）

来賓紹介

塩見 英之（国土交通省 総合政策局長）
橋本 雅道（国土交通省 大臣官房審議官）

議事

第1号議案会長及び副会長選任の件

第2号議案実行委員長及び実行委員選任の件

第3号議案国民会議実施要領の変更の件

インフラメンテナン国民会議の取組紹介

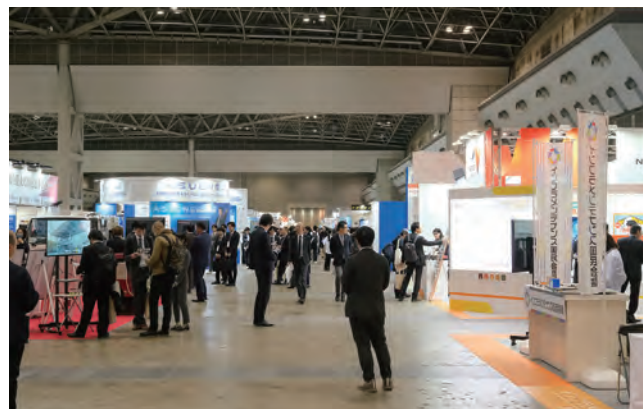
大島 邦彦（国民会議実行委員長）

閉会挨拶

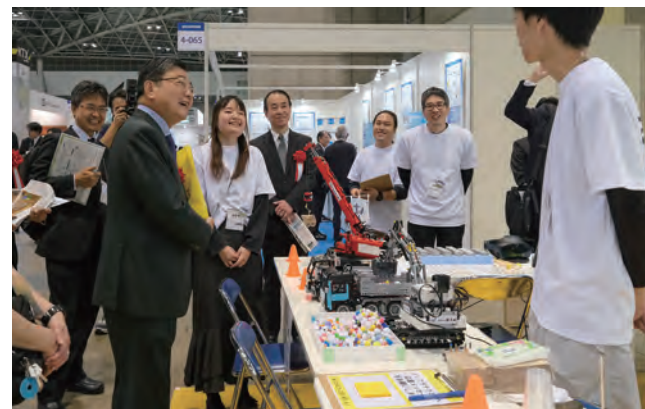
家田 仁（国民会議副会長／
政策研究大学院大学 特別教授）

社会インフラテック2024

インフラメンテナンス国民会議と日本経済新聞社は、令和6年12月4日から6日までの3日間、東京ビッグサイトに「社会インフラテック2024」を開催しました。カンファレンスステージでは、インフラメンテナンス国民会議総会をはじめ、インフラ維持管理・老朽化対策に関するこれまでの取組や今後のあり方などをテーマとしたプログラムを実施しました。また、展示ブースでは、インフラメンテナンス国民会議ブースを設け、パネルや映像を通じて本会議の活動や取組を紹介するとともに、国民会議実行委員がコンシェルジュとして来場者への説明や相談に応じました。



社会インフラテック2024 会場の様子



古川康国土交通副大臣による視察の様子



インフラメンテナンス国民会議展示ブース



インフラメンテナンス国民会議展示ブース



インフラメンテナンス国民会議 紹介パネル

日時 令和6年12月4日（水）～6日（金）の3日間

場所 東京ビッグサイト 東4ホール

展示規模 34社・団体

来場者数 約63,300人（3日間合計）
（同時開催展「エコプロ、社会インフラテック、
カーボンニュートラルテック、自然災害対策展/
ウェザーテック」との合計）

主催 インフラメンテナンス国民会議、日本経済新聞社、日経BP

後援 国土交通省、内閣府、経済産業省、環境省、文部科学省、
厚生労働省、警察庁、公益社団法人土木学会富山 和彦（国民会議会長／
株式会社IGPIグループ会長）

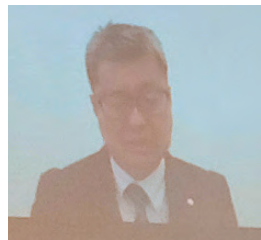
第1部：地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）と インフラメンテナンス最新情報

第2部：SIPスマートインフラ特別講演／未来を支えるスマート インフラマネジメントシステム

第1部では地域インフラ群再生戦略マネジメントの推進に向けた、自治体における包括的民間委託、新技術導入などの取組事例の紹介、第2部では戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）におけるスマートインフラマネジメントシステムの構築やインフラメンテナンスの課題解決に向けた新技術等の紹介を行いました。



第1部講演の様子

岩館 慶多氏
(国土交通省 総合政策局
公共事業企画調整課 調整官)百瀬 大志氏
(静岡県 交通基盤部 建設政策課
課長代理)西尾 直伸氏
(三重県 明和町役場 建設課参事 兼 課長)仁平 寿洋氏
(桜川市役所 建設部 建設課
課長補佐 兼 係長)

第2部講演の様子

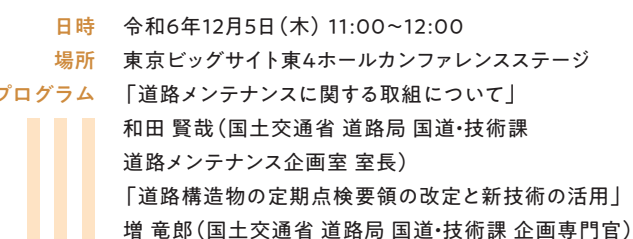
久田 真氏
(東北大学大学院 工学研究科
教授)石田 哲也氏
(東京大学大学院 工学系研究科
教授)貝戸 清之氏
(大阪大学 工学研究科 教授)宮里 心一氏
(金沢工業大学 工学部 教授)

道路メンテナンスの3巡目点検に着手 ～2巡目の点検結果と点検要領の改定～

令和6年度から始まった道路構造物の定期点検3巡目に関して、道路点検要綱の改定のポイントや効率的にマネジメントサイクルを回していくためのデータベース活用などについて説明を行いました



道路点検要綱に関する解説の様子

和田 賢哉氏
(国土交通省 道路局 国道・技術課
道路メンテナンス企画室 室長)増 竜郎氏
(国土交通省 道路局
国道・技術課 企画専門官)

日時 令和6年12月4日(水) 15:00～17:00
場所 東京ビッグサイト東4ホールカンファレンスステージ

プログラム

第1部

「群マネについて」
岩館 慶多氏(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 調整官)
「静岡県・下田市一体型道路包括管理業務委託について」
百瀬 大志氏(静岡県 交通基盤部 建設政策課 課長代理)
「全てが足りない道路メンテナンス」
西尾 直伸氏(三重県 明和町役場 建設課参事 兼 課長) ※オンライン発表
「桜川市の取り組みについて～新技術導入に関するハンズオン・SIP支援～」
仁平 寿洋氏(桜川市役所 建設部 建設課 課長補佐 兼 係長)

第2部

「SIP第3期課題 スマートインフラマネジメントシステムの構築」
久田 真氏(東北大学大学院 工学研究科 教授)
「メンテナンスサイクルの効率化・高度化」
石田 哲也氏(東京大学大学院 工学系研究科 教授)
「インフラのスマート化(EBPM)」
貝戸 清之氏(大阪大学 工学研究科 教授)
「ヒューマンリソースの戦略的活用」
宮里 心一氏(金沢工業大学 工学部 教授)

海外市場展開フォーラムの取り組みと海外展開事例紹介

インフラシステムの海外展開について、国民会議海外市場展開フォーラムの取組紹介をはじめ、新技術の活用などにより海外展開を進めている国内企業の担当者による事例紹介を実施しました。



海外展開事例紹介の様子



館 健一郎氏
(国土交通省 総合政策局 海外プロジェクト推進課 国際建設管理官)



佐々木 栄洋氏
(株式会社栄組 代表取締役)



村上 憲司氏
(東亜道路工業株式会社 建設事業本部 営業部 海外営業課長)

日時 令和6年12月6日(金) 13:00~13:40
場所 東京ビッグサイト東4ホールカンファレンスステージ
プログラム 「海外市場展開フォーラムの取り組み」
館 健一郎(国土交通省 総合政策局 海外プロジェクト推進課 国際建設管理官)
「コンクリート構造物の長寿命化技術の普及と国土強靱化のための予防保全の推進支援」
佐々木 栄洋(株式会社栄組 代表取締役)
「途上国における道路アセットマネジメント技術需要の調査事例」
村上 憲司(東亜道路工業株式会社 建設事業本部 営業部 海外営業課長)

高専生が経営トップに聞くインフラメンテナンス第3弾

これまで「インフラマネジメントテクノロジーコンテスト」に出場した高専生の方と経営トップとの意見交換を行い、地域のインフラメンテナンスに関すること、将来の進路などを話題に議論が繰り広げられました。



パネルディスカッションの様子



奥田早希子氏
(インフラマネジメントテクノロジーコンテスト実行委員会PR部会長)



伊勢 勝巳氏
(東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役副社長)



高田 洸介氏
(呉工業高等専門学校 環境都市工学科)

日時 令和6年12月6日(金) 14:00~15:30
場所 東京ビッグサイト東4ホールカンファレンスステージ
プログラム ●コーディネーター
奥田 早希子(インフラマネジメントテクノロジーコンテスト実行委員会PR部会長)
●パネリスト
伊勢 勝巳(東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役副社長)
高田 洸介(呉工業高等専門学校 環境都市工学科)
阿部 美里(長岡工業高等専門学校 環境都市工学専攻科)
和田 莉央(沼津工業高等専門学校 電子制御工学科)



阿部 美里氏
(長岡工業高等専門学校 環境都市工学専攻科)



和田 莉央氏
(沼津工業高等専門学校 電子制御工学科)

インフラメンテナンス市区町村長会議

インフラメンテナンスに高い関心を持つ市区町村長が自ら構成員となる「インフラメンテナンス市区町村長会議」を令和4年4月28日に設立しました。

目的

- ・首長同士の意見交換による、メンテナンスに関する知見や意識の向上
- ・トップダウンによるインフラメンテナンスの強力な推進
- ・社会に対するインフラメンテナンスの必要性の啓発

令和6年5月16日には第2回目となる「インフラメンテナンス市区町村長会議 全国大会」を開催し、各地方ブロックの意見発表、議事、特別講話などを実施しました。



高橋 勝浩氏
(市区町村長会議代表幹事/
稲城市長)



斉藤 鉄夫氏
(国土交通大臣)



広瀬 栄氏
(近畿ブロック幹事/
養父市長)



片岡 聡一氏
(中国ブロック幹事/
総社市長)



茶谷 義隆氏
(北陸ブロック構成員/
七尾市長)



富山 和彦氏
(国民会議会長/
株式会社IGPIグループ
会長)



家田 仁氏
(国民会議副会長/
政策研究大学院大学
特別教授)



田中 茂義氏
(公益社団法人土木学会
会長)



大島 邦彦氏
(インフラメンテナンス国民会議
実行委員会 委員長)



木下 義昭氏
(玉名市 建設部土木課
課長補佐)

日時 令和6年5月16日(木) 15:00~17:00

場所 砂防会館 別館(東京都千代田区)

参加者 約370名(うち首長ご本人 約150名)

プログラム 主催者挨拶

高橋 勝浩(市区町村長会議 代表幹事/稲城市長)

来賓祝辞

斉藤 鉄夫(国土交通大臣) 意見発表

広瀬 栄(近畿ブロック幹事/養父市長)

片岡 聡一(中国ブロック幹事/総社市長)

茶谷 義隆(北陸ブロック構成員/七尾市長) ※ビデオメッセージ

議事:決議[活動計画(案)、決議(案)]

特別講話

富山 和彦(国民会議 会長/株式会社IGPIグループ会長)

家田 仁(国民会議 副会長/政策研究大学院大学 特別教授)

田中 茂義(公益社団法人土木学会 会長)

大島 邦彦(インフラメンテナンス国民会議実行委員会 委員長)

木下 義昭(玉名市 建設部土木課 課長補佐)

《インフラメンテナンス市区町村長会議》

北海道ブロック

インフラメンテナンス市区町村長会議 北海道ブロック会議

北海道ブロックは、インフラメンテナンスに関する「予算の確保」、「技術職員の不足」の課題に加え「積雪寒冷地」、「広域分散社会」といった特有の課題も輻輳しており、課題の検討と情報共有の有用性に賛同いただいた道内179市町村すべての自治体様に加入いただいております。

当ブロックでは、令和6年11月18日に「インフラメンテナンス市区町村長会議 北海道ブロック会議」を開催し、土木学会より「北海道における橋梁点検データの詳細分析」、国土交通省からは「総力戦で取り組むインフラマネジメント～持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて～」と題して講演をいただき、北海道内や全国を取組状況等について情報共有を図りました。

講演後の意見交換では「各自治体におけるインフラメンテナンスの現状と課題」をテーマに、国及び土木学会における支援の取組みや、他自治体における取組み事例について情報共有するとともに、国、土木学会、市区町村長会議のみならず、専門知識を有する民間企業などで構成される北海道フォーラムも含めた北海道全体の連携が必要であることを確認いたしました。

当ブロックは今後も、深刻な道内のインフラメンテナンスの課題解決に向けた方向性を主体的・全道的に議論していくため、インフラの管理者である市町村長のリーダーシップを高め、より活発な自治体間の交流や情報収集、意見交換推進の一翼として取組んで参ります。

日時 令和6年11月18日(月) 11:00~12:40

場所 TKP札幌駅カンファレンスセンター(3Bホール)

参加者 企画委員:10市町、構成員:41市町村(WEB)

プログラム 開会挨拶

水谷 洋一(網走市長/北海道ブロック幹事)

来賓挨拶

高野 伸栄(北海道フォーラムリーダー/北海道大学大学院 工学研究院 教授)

松本 浩嗣(公益社団法人土木学会 インフラメンテナンス総合委員会 北海道支部委員/

北海道大学大学院 工学研究院 准教授)

坂場 武彦(国土交通省 北海道開発局長)

岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)

講演

「北海道における橋梁点検データの詳細分析」

松本 浩嗣(公益社団法人土木学会 インフラメンテナンス総合委員会 北海道支部委員)

「総力戦で取り組むインフラマネジメント

～持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて～」

岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)

意見交換会

〈企画委員〉

水谷 洋一(網走市長)

天野 周治(札幌市 副市長(代理出席))

山本 寛人(函館市 土木部長(代理出席、WEB))

宮崎 雄一(倶知安町 副町長(代理出席))

菅野 直行(旭川市 副市長(代理出席))

大黒 克巳(白老町 副町長(代理出席))

吉田 英樹(釧路市 副市長(代理出席))

米沢 則寿(帯広市長(WEB))

大和 俊賢(留萌市 都市環境部長(代理出席、WEB))

工藤 広(稚内市長)

〈公益社団法人土木学会〉

松本 浩嗣(インフラメンテナンス総合委員会 北海道支部委員)

〈国土交通省〉

岩井 聖(総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)



水谷洋一網走市長による
北海道ブロック幹事挨拶の様子



松本浩嗣氏による講演の様子



意見交換会の様子

東北ブロック

令和6年度インフラメンテナンス市区町村長会議 東北ブロック

東北ブロックでは、メンテナンス施策の更なる推進を図るため、福島県南相馬市にて「令和6年度インフラメンテナンス市区町村長会議 東北ブロック」を開催いたしました。

意見交換会では、「インフラメンテナンスの重要性に対する機運の醸成に向けて」をテーマに、「市区町村長会議発足2年、各市の取り組み経過、今後取り組みたいこと」、「インフラメンテナンスの必要性・重要性の理解向上に向け地域住民へ伝えたいこと」の2点について企画委員である宮古市山本市長、白石市山田市長、山形市佐藤市長、八戸市熊谷市長、秋田市穂積市長、南相馬市門馬市長から各市の取組状況を報告いただき、意見交換を行いました。各市からは1点目の議論では予防保全型インフラメンテナンスに向けた取り組みや、デジタルの活用、包括的民間委託の実施などについて発言があったほか、2点目では人材不足への対応や、予防保全型インフラメンテナンスへの転換にあたり、安定的な予算を確保するためには住民の理解が必要であるといった発言がありました。東北フォーラム石川リーダーからは、インフラが老朽化し、将来的に使用できなくなった場合、一番不利益を被るのは次の世代の人々であるため、小中学生を対象に地域社会を学ぶという授業を導入し、子供の頃からまちのインフラに興味を持ってもらい、次世代の地域を支える人材を育成することが重要との発言があり、活発な意見交換となりました。東北ブロックでは令和6年9月に参画機関100%となっており、今後より一層の繋がりが期待されます。引き続き効果的・効率的なインフラメンテナンスを目指し、取り組みを推進していきます。

日時 令和7年1月28日(火) 14:30～17:00
場所 福島ロケットテストフィールド カンファレンスホール
参加者 会場出席:約80名(28市町村) Web出席:約70名(37市町村)
プログラム 開会挨拶

山本 正徳(東北ブロック幹事/宮古市長)

開催地挨拶

門馬 和夫(東北ブロック企画委員/南相馬市長)

来賓祝辞

池口 正晃(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長)

西村 拓(国土交通省 東北地方整備局長)

議事

議長:山本 正徳(東北ブロック幹事/宮古市長)

・令和6年度及び令和7年度活動計画(案)

活動計画説明:去石 一良(宮古市 都市整備部 建設課長)

・決議(案)

決議案提案:門馬 和夫(東北ブロック企画委員/南相馬市長)

講演

・「インフラメンテナンス国民会議東北フォーラムの近況と土木学会東北支部

「東北インフラマネジメント委員会」の中間報告」

石川 雅美(インフラメンテナンス国民会議東北フォーラム リーダー/

東北学院大学 工学部 教授)

・「国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組」

～地域インフラ群再生戦略マネジメントの実現に向けて～

池口 正晃(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長)

意見交換

山本 正徳(東北ブロック幹事/宮古市長)

熊谷 雄一(東北ブロック企画委員/八戸市長)※VTR参加

山田 裕一(東北ブロック企画委員/白石市長)※WEB参加

穂積 志(東北ブロック企画委員/秋田市長)※VTR参加

佐藤 孝弘(東北ブロック企画委員/山形市長)※WEB参加

門馬 和夫(東北ブロック企画委員/南相馬市長)

石川 雅美(インフラメンテナンス国民会議東北フォーラム リーダー/

東北学院大学 工学部 教授)

宮本 健也(司会・進行/東北地方整備局企画部長)

閉会挨拶

穂積 志(東北ブロック企画委員/秋田市長)



開催地企画委員(南相馬市長)による挨拶の様子



議事の様子



意見交換会の様子

関東ブロック

インフラメンテナンス市区町村長会議 関東ブロック会議(第3回)

関東ブロックにおけるインフラメンテナンスに関心を有する市区町村長で構成するインフラメンテナンス市区町村長会議関東ブロック会議を開催しました。

冒頭、関東ブロック幹事である稲城市長より開会挨拶があり、インフラメンテナンスにかかる財源の確保や技術者不足及び業務体制の確立が喫緊の課題となっていること、今後本格化するインフラメンテナンスにおいては、現行の財源や予算配分、契約方式で対応することは困難であり、メンテナンスの進め方を抜本的に見直す必要があること、またより多くの市区町村に関心を持ってもらうよう情報発信を続け、課題解決に繋げたいと述べました。

「令和6年度年間事業計画」の議事においては、インフラメンテナンスに関する先進的な取組の情報共有や、有識者等による講演や関東ブロック参画自治体による意見交換、積極的な広報活動による未参画首長への参画の働きかけ、組織・人的ネットワーク構築を目的とした土木学会関東支部との連携、地域インフラ群再生戦略マネジメント導入に向けた検討、関東フォーラムとの連携等に取り組むことを議決しました。

講演では、関東管内における自治体のインフラメンテナンスの課題解決に向けた全国の最新動向や具体事例、関東道路メンテナンスセンターによる技術支援の紹介に加え、関東フォーラムリーダーより関東フォーラムによる自治体支援の取り組みの紹介がありました。また、インフラメンテナンス市区町村長会議と土木学会との連携協定締結を受け、土木学会関東支部の協力により、学会員の山梨大学准教授より自治体での利用を想定した新技術の紹介がありました。

自治体発表では、企画委員代表の下野市、安中市、春日部市、木更津市、甲府市及び構成員である桜川市により各自治体の現状と課題及び解決に向けた取り組みの紹介を行いました。

日時 令和6年7月22日(月) 13:30～15:30
場所 つくば国際会議場 大会議室101
参加者 135名(会場参加78名、WEB参加57名)
(自治体、国土交通省、関東フォーラム、土木学会 等)

プログラム 開会挨拶

高橋 勝浩(インフラメンテナンス市区町村長会議関東ブロック幹事/稲城市長)

開催地挨拶

萩原 勇(茨城県企画委員/龍ヶ崎市長)

来賓祝辞

渡邊 良一(国土交通省 関東地方整備局 企画部長)

議事

議長:高橋 勝浩(インフラメンテナンス市区町村長会議関東ブロック幹事/稲城市長)

・令和6年度年間事業計画

講演

池口 正晃(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長)

長山 智則(関東フォーラムリーダー/東京大学教授)

吉田 純司(土木学会関東支部連携/山梨大学大学院 総合研究部 工学域土木

環境工学系 准教授)

平本 和寿(国土交通省 関東地方整備局 関東道路メンテナンスセンター長)

自治体発表

坂村 哲也(栃木県企画委員/下野市長)

岩井 均(群馬県企画委員/安中市長)

岩谷 一弘(埼玉県企画委員/春日部市長)

田中 幸子(千葉県企画委員)※代理木更津市副市長

奥原 崇(山梨県企画委員)※代理甲府市副市長

大塚 秀喜(茨城県構成員/桜川市長)

石川 武彦(茨城県構成員/桜川副市長)

閉会挨拶

山口 貴裕(神奈川県企画委員/厚木市長)

※役職は開催時のもの



東京都稲城市長高橋勝浩
開会挨拶の様子



議事議決後の記念写真の様子



会場の様子

北陸ブロック

第3回北陸ブロックインフラメンテナンス市区町村長会議

当会議ではインフラメンテナンスの重要性・現状課題について共有し、持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて、トップダウンにより力強く推進していくことを目的としています。

今回の会議では、奈良県より地域の活力の維持・向上や持続可能で効率的な行財政運営を目指す、市町村同市または県と市区町村の連携・協働のしくみ「奈良モデル」についてご講演いただき、構成員より各自治体のインフラメンテナンスの取組や、課題についてご発言いただきました。

- ・建設から50年を経過する橋梁は全国平均を下回っているが、大幅に増加していく見通しであるため、予防保全にむけた努力を続けている。10年後の市の技術職員が現在の7割程度となるため、技術力の確保・継承が問題であり、解決にむけて県と連携していきたい。
 - ・技術職員の不足は顕在化していくため、新規の職員採用が困難である状況下において、奈良県モデルなどを参考に検討を進めていきたい。
 - ・インフラ施設の再生整備の時期をむかえており、国や県とも連携していきたい。
 - ・インフラメンテナンスと並行してインフラの強靱化が必要である。予防保全も重要ではあるが、今後は高速道路で実施されているような大規模修繕も必要になってくるのではないかな。
 - ・大規模災害に対する事前復興のためにも、インフラメンテナンスは非常に重要である。
 - ・北陸地方は積雪が多く、道路損傷も著しいため、雪国への配慮をお願いしたい。
 - ・橋梁や上下水道など生活インフラのメンテナンスに対する重要性は十分認識しているが、新規職員の採用も困難で技術職員が減少しているほか、財源の確保も厳しい状況にあり、メンテナンスが思うように進んでいない。
- 今後は市区町村長会議参画自治体の横連携のみでなく、新潟県、石川県、富山県等の県と縦連携が進められるよう調整して行きたい。

日時	令和7年1月28日(火) 13:00~14:30
場所	上越市文化会館
参加者	35自治体
プログラム	開会挨拶 菊地 正寛(北陸ブロックインフラメンテナンス市区町村長会議 幹事/氷見市長) 祝辞 岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官) 北陸ブロック会議 概要説明 氷見市 建設部 ふるさと整備課 講演 ・国土交通省のインフラメンテナンスに関する取組について 岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官) ・「奈良モデル」における広域連携の取組について 浦井 和弘(奈良県 県土マネジメント部 道路マネジメント課 道路メンテナンス係長) 意見発表、質疑応答 その他 閉会挨拶 油野 和一郎(北陸ブロックインフラメンテナンス市区町村長会議 企画運営委員/かほく市長)



開会挨拶の様子(菊地氷見市長)



閉会挨拶の様子(油野かほく市長)



出席者記念撮影

中部ブロック

インフラメンテナンス市区町村長会議 中部ブロック会議

中部ブロック・インフラメンテナンス市区町村長会議は、公益社団法人土木学会中部支部と連携して、中部ブロック会議を岐阜県大野町の総合町民センターで開催しました。

会場には後援する中部地方整備局の佐藤寿延局長ら来賓を含む関係者約60人が参加した他、オンラインでも約90人が会議を聴講しました。

国土交通省総合政策局公共事業企画調整課の岩井聖企画調整官、社会資本整備政策課の粟津貴史企画専門官、中部フォーラムの原田和樹リーダーがインフラメンテナンスの取り組み、PFIの今後の展開などについて、講演を行いました。

続いて、中部ブロック会議の代表幹事を務める宇佐美晃三大野町長の他、林宏優山県市長、森和之瑞穂市長、三重県の上村久仁南伊勢町長、中村忠彦度会町長らが、インフラメンテナンスの取組と課題、今後の展望について、意見交換を行いました。持続可能なインフラメンテナンスの実現に向け、関係者が連携して取り組んでいくことを確認しました。

また、先だって行われたDIY現地講習会では、大野町職員が大野町総合町民センターに架かる小規模橋梁の補修方法を説明しました。降雨時に壁高欄を伝って床版下部に回り込み、内部鉄筋の腐食やコンクリートの劣化につながる伝い水を防止するため、参加の自治体職員が「水切り」の設置を体験しました。

日時	令和7年2月14日(金) 13:00~17:00
場所	大野町総合町民センター他
参加者	会場出席:約60名(自治体等) Web出席:約90名(自治体等)
プログラム	第一部 DIY現地講習会 ・小規模橋梁の水切り設置 第二部 中部ブロック会議 開会挨拶 宇佐美 晃三(中部ブロック幹事/岐阜県大野町長) 来賓挨拶 佐藤 寿延(国土交通省 中部地方整備局長) 岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官) 講演 「国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組」 岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官) 「PPP/PFIの新たな展開~インフラ維持管理・スモールコンセッション等~」 粟津 貴史(国土交通省 総合政策局 社会資本整備政策課 企画専門官) 「中部フォーラムの取組紹介」 原田 和樹(インフラメンテナンス国民会議 中部フォーラムリーダー/日本工営都市空間株式会社 執行役員大阪支店長) 意見交換会 「各自治体の取組や課題について」 ● 座長 國枝 稔(岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授) ● 参加者 宇佐美 晃三(中部ブロック幹事/岐阜県企画委員/大野町長) 難波 喬司(静岡県企画委員/静岡市長)※代理建設局長 竹本 幸夫(愛知県企画委員/豊川市長)※代理副市長 上村 久人(三重県企画委員/南伊勢町長) 林 宏優(岐阜県構成員/山県市長) 森 和之(岐阜県構成員/瑞穂市長) 朝倉 和仁(岐阜県構成員/輪之内町長)※代理副町長 藤井 弘之(岐阜県構成員/神戸町長)※代理副町長 岡部 栄一(岐阜県構成員/揖斐川町長)※代理副町長 竹中 誉(岐阜県構成員/池田町長)※代理副町長 中村 忠彦(三重県構成員/度会町長) 他 閉会挨拶 小林 智尚(土木学会中部支部長/岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授)



ブロック幹事(大野町長)による開会挨拶



中部地方整備局長による来賓挨拶



意見交換会

近畿ブロック

「インフラメンテナンス市区町村長会議近畿ブロック」第3回総会

近畿ブロックでは、市区町村長のメンテナンスに関する知見や意識の向上、トップダウンによるインフラメンテナンスの強力な推進、社会に対するインフラメンテナンスの必要性の啓発等を目的として、先進的な事例の共有や、インフラメンテナンスの今後の方向性に関する意見交換、議論を踏まえたメッセージの発信などに取組んでおります。

令和6年度も近畿本部フォーラムの協力のもと総会を開催し、講演や意見交換会を実施することにより、インフラメンテナンスに関する情報交換、知見や意識の向上を図りました。

「インフラメンテナンスにおける人材不足・人材育成に関する課題と取り組みについて」をテーマとした各府県企画委員及び構成員による意見交換では、各自治体の現状や抱える課題、それに対する取組みを情報交換し、課題解決に向けて活発な議論がなされました。これらを通じ、インフラメンテナンスの重要性を再認識するとともに、直面している危機的状況を打破するため、『市区町村長会議』という共有できる場を活かし、自治体同士が連携して取り組んでいくことが必要不可欠であることを確認しました。また、インフラメンテナンスの関係者を増やし、国民の方々も含めて、インフラメンテナンスが自分たちに関わる重要なことだと認識し、『我が事として』捉えるようにしていくことの必要性を発信した総会となりました。

日時 令和6年5月23日(木) 13:15～16:15

場所 花博記念公園鶴見緑地内 特設ステージ

参加者 齋藤 博之(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長)
小島 優(国土交通省 近畿地方整備局 企画部長)
大西 正光(土木学会関西支部/京都大学大学院 工学研究科 教授)
広瀬 栄(近畿ブロック幹事/兵庫県企画委員/養父市長)
佐藤 健司(滋賀県企画委員/大津市長)
上村 崇(京都府企画委員/京田辺市長)
野田 義和(大阪府企画委員/東大阪市長)
佐藤 哲也(和歌山県企画委員/和歌山市長(代理) 和歌山市副市長)
酒井 了(大阪府構成員/貝塚市長)
浜上 勇人(兵庫県構成員/香美町長)
中井 章太(奈良県構成員/吉野町長) 注:役職は開催時のもの

プログラム

開会挨拶

広瀬 栄(近畿ブロック幹事/兵庫県企画委員/養父市長)

来賓挨拶

高橋 勝浩(インフラメンテナンス市区町村長会議 代表幹事/稲城市長)

※ビデオメッセージ

齋藤 博之(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長)

基調講演

『国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組』

齋藤 博之(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長)

特別講演

『インフラガバナンスにおける官民対話の意義』

大西 正光(土木学会関西支部/京都大学大学院 工学研究科 教授)

意見交換会

『インフラメンテナンスにおける人材不足・人材育成に関する課題と取り組みについて』

● コメンテーター

大西 正光(土木学会関西支部/京都大学大学院 工学研究科 教授)

● コーディネーター

小島 優(国土交通省 近畿地方整備局 企画部長)

● パネリスト(意見交換会参加者含む)

広瀬 栄(近畿ブロック幹事/兵庫県企画委員/養父市長)

佐藤 健司(滋賀県企画委員/大津市長)

上村 崇(京都府企画委員/京田辺市長)

野田 義和(大阪府企画委員/東大阪市長)

佐藤 哲也(和歌山県企画委員/和歌山市長(代理) 和歌山市副市長)

酒井 了(大阪府構成員/貝塚市長)

浜上 勇人(兵庫県構成員/香美町長)

中井 章太(奈良県構成員/吉野町長)

注:役職は開催時のもの



ブロック幹事(養父市長)による
開会挨拶の様子



土木学会関西支部 大西正光氏による講演



意見交換会の様子

インフラメンテナンス市区町村長会議と土木学会関西支部との連携講習会

令和5年に開催された「インフラメンテナンス市区町村長会議全国大会」において、技術的助言や人材育成等の面で連携するため締結された「インフラメンテナンス市区町村長会議」と「土木学会」との連携に関する協定に基づき、「インフラメンテナンス市区町村長会議(近畿ブロック)と土木学会関西支部との連携講習会」が開催されました。ブロック幹事の養父市長をはじめ、構成員である朝来市長、近隣の自治体職員、土木学会関西支部からは学識者と民間事業者が参加しました。また近畿地方整備局及び兵庫県からも参加がありました。近畿ブロックにおいては初めての開催となります。

座学では、土木学会関西支部から「維持管理」、「橋梁点検、措置の事例」、「官民の対話」について講義があり、メンテナンスの実務から官民連携と学識者との関わりなど、インフラメンテナンスの現状と今後の展望について理解が深まりました。

意見交換会では、メンテナンスに関する相談として、市町が管理する橋梁補修における、各市町が抱える課題について現況写真とともに報告され、土木学会から助言をいただきながら、補修の対応策、今後のメンテナンスについて、活発な議論が行われました。

日時 令和6年5月31日(金) 13:00～17:00

場所 やぶ市民交流広場 大会議室

参加者 養父市(広瀬市長他11名)
豊岡市(4名)
香美町(4名)
朝来市(藤岡市長他4名)
新温泉町(3名)
土木学会関西支部(10名)
国土交通省 近畿地方整備局(1名)
国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所(所長他5名)
兵庫県 但馬県民局 養父土木事務所(1名)
株式会社近畿地域づくりセンター(1名)
計47名

プログラム

座学

・「RC橋PC橋の設計、維持管理」

三木 朋弘(神戸大学大学院 工学研究科 准教授)

・「阪神高速の点検について」

野村 真介(阪神高速技術株式会社 専門役)

・「インフラガバナンスにおける官民対話の意義」

大西 正光(京都大学大学院 工学研究科 教授)

演習(意見交換会)

・橋梁のメンテナンス等に関する相談

※役職は開催時のもの



養父市長による開会挨拶の様子



座学の様子



意見交換会の様子

四国ブロック

インフラメンテナンス市区町村長会議四国ブロック会議（総会）

地方自治体による効率的・効果的なインフラメンテナンスの実現を目的とし、四国4県の市町村長で構成される組織として、インフラメンテナンスにおける現状課題、重要性を共有し、メンテナンスに関する知見や意識を向上させるとともに、戦略的にマネジメントする体制の構築等に向け、第3回の四国ブロック会議総会を開催しました。

総会では、令和5年度の活動報告および令和6年度の活動計画（案）について採決を行いました。また、本省公共事業企画調整課の岩井企画調整官、愛媛大学の矢田部名誉教授および篠原特定教授による講演が行われ、群マネや最新インフラメンテナンスに関する知見などの情報提供がなされました。

さらに、徳島県の影治美波町長からは「ハンズオン支援事業について」四国地方整備局企画部の藤田事業調整官からは、「市区町村会議とフォーラムの連携に関する取組ための推進検討会」について、具体的な事例発表がありました。

四国ブロック会議は、地方自治体が連携してインフラメンテナンスの課題に取り組むための重要な場となっており、来年度も、四国ブロック会議では、インフラメンテナンスに関する最新の情報や技術を共有し、地域の発展に寄与することを目指しています。

日時	令和6年11月7日（木）
場所	サンポートホール高松 第2小ホール（高松市）
参加者	自治体、県など関係者（約120名）
プログラム	開会挨拶 楠瀬 耕作（ブロック幹事/高知県須崎市長） 祝辞 インフラメンテナンス市区町村長会議代表幹事 東京都稲城市長（ビデオレター） 国土交通省 四国地方整備局長 国土交通省総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官 来賓・企画委員等の紹介 四国 土木部（オブザーバー） ブロック幹事、企画委員、構成員 議事 令和6年度活動報告及び令和7年度活動計画（案） 講演 「国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組」 岩井 聖（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官） 「四国におけるインフラメンテナンスの効果的展開をめざして」 矢田部 龍一（愛媛大学 名誉教授） 『被災時の早期復興』・『インフラ管理の効率化』を実現する「4次元マッピングプラットフォーム」の開発 篠原 潤（愛媛大学 特定教授） 事例発表 「ハンズオン支援事業について」 影治 信良（徳島県美波町長） 「インフラメンテナンス推進検討会の活動紹介」 藤田 博史（国土交通省 四国地方整備局 事業調整官） 閉会



ブロック幹事（須崎市長）挨拶の様子



議事の様子

中国ブロック

インフラメンテナンス市区町村長会議 中国ブロック会議

インフラの老朽化という課題に対して、地方自治体の首長によるトップダウンでインフラメンテナンスを強力に推進することを目的として、「インフラメンテナンス市区町村長会議中国ブロック会議」を開催しました。

基調講演では、国土交通省総合政策局公共事業企画調整課の池口課長より国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組、鳥取大学の黒田教授より鳥取県のインフラメンテナンスにおける新技術の導入と人材育成についての取組、インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の藤井リーダーより「ちゅうごく」による取組の紹介があり、インフラメンテナンスに関する最新の動向について共有しました。

意見発表では「予防保全への転換（インフラメンテナンスに係る課題と取組）」をテーマに各県が抱える課題、取組について企画委員が発表を行い、コーディネーターの土木学会西山中国支部長より、市区町村長会議から市民に対して情報発信を行い地域を盛り上げていくことが重要との提言をいただきました。

改めて本会議の目的に立ち返り、地域の将来像を見据えたインフラのマネジメントを首長のイニシアティブにより効率的かつ強力に推進し、魅力ある地域社会の実現を目指して行くことを確認しました。

日時	令和6年10月28日（月） 14:00～16:30
場所	鳥取県立生涯学習センター「県民ふれあい会館」1階ホール
参加者	会場参加84名（内、自治体54名） web参加72名（内、自治体31名）
プログラム	開会挨拶 片岡 聡一（岡山県総社市長/中国ブロック幹事） 深澤 義彦（鳥取県鳥取市長/開催市企画委員） 来賓祝辞 池口 正晃（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長） 林 正道（国土交通省 中国地方整備局長） 講演 池口 正晃（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長） 黒田 保（鳥取大学 工学部 社会システム土木系学科 教授） インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の取組事例紹介 藤井 堅（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー） 意見発表 予防保全への転換について（インフラメンテナンスに係る課題と取組） ● 企画委員 片岡 聡一（岡山県総社市長） 山本 浩章（島根県益田市市長） 新原 芳明（広島県呉市長）（ビデオレターにより参加） 深澤 義彦（鳥取県鳥取市長） 藤井 律子（山口県周南市長） ● コーディネーター 西山 哲（土木学会中国支部支部長/岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 教授） 閉会挨拶 山本 浩章（島根県益田市市長）（次回開催市）



ブロック幹事による開会挨拶の様子



記念撮影の様子



意見交換会の様子

九州・沖縄ブロック

「第10回ピッチイベント」(九州フォーラムとの合同開催) 第3回インフラメンテナンス市区町村長会議 九州・沖縄ブロック会議

インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムと九州・沖縄ブロック会議による初の合同開催となる「第10回ピッチイベント」を開催し、インフラメンテナンスの重要性と必要性、市区町村レベルでの取り組みと課題、国や土木学会との連携・支援などについて、九州各県代表首長等で意見交換や情報共有を行いました。

今回の合同開催は三部構成とし、第Ⅰ部では基調講演、第Ⅱ部では市区町村長会議にて、九州各市（熊本市、日田市、杵築市）の取り組み紹介及び首長等による意見交換会を行いました。

最後に、第Ⅲ部では、第Ⅱ部までの自治体の意見を受けて、「どうする？群マネ」と題して国交省、学識者、先進事例自治体によるパネルディスカッションが行われました。

第Ⅱ部の首長等による意見交換会では、「群マネや包括的民間委託」を導入するにあたっての課題、県内市町村の検討状況について、「技術職員が減少する中、民間委託は魅力的」「職員の負担軽減が図られる」「行政区域にこだわらず広域的な管理を行うことで、管理が効率的」「市民サービスへの対応が迅速になる」などの意見がある一方、「自治体間の調整・体制構築が困難」「民間事業者の理解が必要」「市区町村間の維持管理レベルに差が出るのではないか」「民間事業者での対応する範囲の判断が難しいのでは」といった課題についても意見がありました。

今回、フォーラムと市区町村長会議を合同で開催したことで、先進事例の取り組みや「群マネ」のモデル地域の取り組み状況や成果についての聴講は参考となる一方、地域によって維持管理を取り巻く環境は大きく異なることを再認識できました。

今後の課題としては、「群マネ」「包括的民間委託」の展開を拡大するにあたり、参考事例をもとに、各市町村に適合できるようにカスタマイズする提案力が必要であり実務的な留意点について掘り下げて研究する必要があることです。

日時 令和6年10月9日(水) 13:00～17:30
場所 福岡国際会議場
参加者 会場参加:164名、WEB参加:314名 計478名
プログラム 開会の挨拶

大西 一史(インフラメンテナンス市区町村長会議九州・沖縄ブロック幹事/熊本市長)
(ビデオメッセージ)

日野 伸一(九州フォーラムリーダー/久留米工業大学 学長)

青野 正志(国土交通省 九州地方整備局 企画部長)

関 信郎(内閣府 沖縄総合事務局 企画調整官)

〈第一部〉

総力戦で取り組むインフラマネジメント

～持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて～

岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)

インフラの包括的民間委託

(三条市の取組事例)

大坂 市郎(新潟県 三条市 建設部建設課 課長補佐)

〈第二部〉

第3回インフラメンテナンス市区町村長会議 九州・沖縄ブロック会議

● 司会

飯干 修一(熊本市 都市建設局 土木部 土木総務課長)

● ファシリテーター

松村 政秀(熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授)

● 登壇者(一部抜粋)

棕野 美智子(日田市長)

松本 哲治(浦添市長)

木下 義昭(ライモン九州・沖縄ワーキンググループ長)

九州各市の取組み発表

並河 洋一(熊本市 道路保全課長)

高倉 実(日田市 土木課長)

平田 勝宏(杵築市 上下水道課 主幹)

意見交換会

～群マネや包括的民間委託の導入検討に向けて～

〈第三部〉

パネルディスカッション

『どうする？群マネ』～初めての取組を模索する中での光～

● ファシリテーター

福島 邦治(一般社団法人ツタワルドボク副会長)

株式会社日本ビーエス スマートインフラサービス推進室長)

● 登壇者

岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)

寺尾 幸太郎(国土交通省 九州地方整備局 企画部 事業調整官)

森尾 宣紀(長崎市 中央総合事務所 地域整備1課)

大坂 市郎(新潟県三条市 建設部建設課 課長補佐)

松田 浩(長崎大学 名誉教授)

閉会の挨拶

田中 清(九州フォーラムサブリーダー)

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会九州支部 支部長)



ブロック幹事(熊本市長)による開会挨拶の様子



意見交換会の様子



会場の様子

《公認フォーラム》

革新的技術フォーラム

革新的技術フォーラムは、施設管理者の課題に対して、会員が有する技術・サービス等について集約・情報提供を行うとともに、革新的技術の社会実装に向けた課題整理を行うという運営方針のもと、革新的技術の社会実装が進まないという課題に対処していきます。

01 インフラメンテナンスのグッドプラクティスの展開

第7回インフラメンテナンス大賞において、内閣総理大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、国土交通大臣賞、優秀賞を受賞された方々より、技術開発をはじめ、メンテナンス実施現場における工夫、メンテナンスを支える活動などの好事例について紹介していただきました。



インフラメンテナンス大賞を受賞した
取組紹介の様子



岩館 慶多
(国土交通省 総合政策局
公共事業企画調整課 調整官)



熨斗 克哉
(大阪ガスネットワーク株式会社
導管計画部R&Dチーム)



若林 泰生
(理化学研究所 量子工学研究センター
中性子ビーム技術開発チーム 研究員)



吉富 昌宏
(山口県土地改良事業団体連合会
事業部業務管理課 主査)



百束 泰俊
(株式会社天地人 副社長 CSTO)

日時 令和6年12月5日(木) 15:00～17:00
場所 東京ビッグサイト東4ホールカンファレンスステージ
プログラム 「国土交通省における取り組み紹介」

岩館 慶多(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 調整官)

「レーザー分光式検知器と専用ナビの活用による漏えい検査の効率化」

熨斗 克哉(大阪ガスネットワーク株式会社 導管計画部R&Dチーム)

「中性子によるコンクリート塩分濃度非破壊検査の技術開発」

若林 泰生(理化学研究所 量子工学研究センター 中性子ビーム技術開発
チーム 研究員)

「やまぐち農業農村DX デジタル活用によるインフラメンテナンスサイクルの構築へ」

吉富 昌宏(山口県土地改良事業団体連合会 事業部業務管理課 主査)

「宇宙ビッグデータとAIが創る持続可能な社会システムのこれから～宇宙水道局～」

百束 泰俊(株式会社天地人 副社長 CSTO)

「田原本町における道路ストック包括管理への取り組み」

森崎 静一(株式会社オリエンタルコンサルタンツ 道路整備・保全事業部 副事業部長)

「ねらいを定めてAIを使いこなす ～山口県の市町も含めた橋梁点検の

高度化・効率化～」

吉村 崇(山口県 土木建築部道路整備課 主任)



森崎 静一
(株式会社オリエンタルコンサルタンツ
道路整備・保全事業部 副事業部長)



吉村 崇
(山口県 土木建築部道路整備課 主任)

自治体支援フォーラム

自治体支援フォーラムでは、会員自治体の体制や課題を、地区担当を通じて地方フォーラムで把握し、自治体の課題やニーズ、取り組み状況を共有します。これらに対して、包括的な民間委託や技術者派遣など、状況に応じた解決策を提案。必要に応じて技術者育成フォーラムと連携し、情報提供や共有を進めます。

01 インフラメンテナンス2時間合宿in社会インフラテック2024

自治体が抱えるインフラ維持管理の課題解決の支援として、「群マネ」の理解を深めるための講演及び包括管理に取り組む先進自治体の事例紹介、並びに、参加者による意見交換会を開催しました。

全国の市区町村には、人口規模や社会インフラの整備状況、自治体職員の数、住民の意識など様々な特色がある。これらの自治体職員が集まり、それぞれのまちの特色を理解し合っ
て、わがまちで「群マネ」を進めるにあたっての課題やその解決策、解決策を進めるにあたっての
様々な障壁などについて意見交換を行い交流を深めました。

日時 令和6年12月5日(木) 13:00~15:15
場所 東京ビッグサイト東4ホール出展者プレゼンテーション会場
参加者 全国の自治体職員26名(17自治体)

プログラム **講演**
・国交省における群マネの取組み(総合政策局公共事業企画調整課)
・包括的民間委託の先行事例(静岡県、三重県明和町)

意見交換

～わがまちで「群マネ」を始めるには～をテーマに、「①日常業務に感じている課題」「②解決策のアイデア」「③導入に向けて想定される壁」「④壁を乗り越えるために必要なこと」について、ワークショップ形式でアイデアを出し合い、グループ毎に発表して共有した。

主な意見

- ①日常業務に感じている課題
「苦情対応に追われる」「人・時間・予算・技術力・データがない」
- ②解決策のアイデア
「仕事の仕方の見直し」「管理水準のレベル分け」「包括管理の導入」
- ③導入に向けて想定される壁
「市町村・国・県の壁」「首長の壁」「業者や業界との壁」
- ④壁を乗り越えるために必要なこと
「リーダーシップ」「意見交換」「やる気・やってみる」



国交省による講演



自治体による事例紹介(参加者との質疑応答)



ワークショップの様子



ワークショップ成果発表の様子

02 内房エリアの勉強会

自治体のインフラ維持管理を効率化するには、先進事例の情報共有が重要です。職員間の意見交換会では、調達方法や技術力、マンパワーなどをテーマに現状や課題を議論し、知識や技術を共有します。

特に、絞ったエリアでの開催は、社会的背景や環境が類似しているため、課題の深掘りが可能となります。

日時 令和6年1月26日(金) 15:00~17:00
令和6年10月11日(金) 15:00-17:00
場所 木更津工業高等専門学校 会議室
参加者 市原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市の職員
木更津工業高等専門学校 教員
インフラメンテナンス国民会議関東地方フォーラムメンバー

プログラム **1部(課題提起)**
・各基幹事業における費用の調達方法について。また個別施設の管理形態について
2部(話題提供)
・包括的民間委託の導入の検討
・長崎県インフラメンテナンス連絡調整協議会について意見交換
意見交換



勉強会の様子

技術者育成フォーラム

包括民間委託、技術者派遣等の新たな民間ノウハウを活用する手法の中で、担い手側に求められる企業連携やマネジメント体制の確立に向けて、地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性を模索するイベントを地方フォーラムと連携して開催し、またインフラメンテナンスの課題解決の具体策として、求められる技術者の役割や資格・制度の枠組み等について検討を進め、試行・実装を目指して活動しています。さらに地方フォーラムでのインフラメンテナンス時代のリーダーの育成を目指す先進的な取り組みをスパイラル支援していきます。

01 前線の官民担い手のメンテナンス勉強会 (試行編 路面補修と防草対策)

地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性を模索するために、地域特性のインフラメンテナンスの課題解決の具体策として、立場の異なる施設管理者(ニーズ提案者)と技術保有者(シーズ提供者)そして工事施工者が集まり、官民担い手のメンテナンス勉強会を試行的に開催しました。

日時 令和6年7月23日(火) 9:00~12:00
場所 静岡県 島田市教育センター内(会議室と施設内駐車場)
参加者 約30名(施設管理者、工事施工者、技術保有者等)

プログラム **テーマ「施設管理者が施工可能(DIY)な工法の選定と施工体験」**

- 1)情報共有
・路面損傷状況とその発生原因
・技術(シーズ)情報の整理と工程選定の考え方
- 2)現地調査
・発生原因に応じた対策の検討
- 3)現地実習
・施設管理者が施工可能(DIY)な工法の実習
(路面補修及び防草対策技術)



会議室での勉強会の様子



現地実習の様子



現地実習の様子



現地実習の様子

02 メンテナンスの困り事をみんなで一緒に解決しませんか！ 「様々な取り組みの紹介」

新技術交流イベントin Sizuoka 2024の主催者ブースに出展し、インフラメンテナンス国民会議の広報と、メンテナンスの課題解決の取り組みについての各フォーラムでの事例を紹介し、来場した産官学民の方々と対面で意見交換をしました。インフラをメンテナンスすることの大切さと、これからの時代の地域の発展を牽引するインフラメンテナンスリーダーの充足の必要性を知ってもらう機会としました。また、会員の方々からのプラットフォームの活用についての質問に答える形で、積極的な参加の理解を頂く機会ともなりました。

日時 令和6年11月13日(水)10:00~16:30
場所 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
参加者 来場者(1,180名) ブースに来られた方々と意見交換(学生、大学、自治体、企業)
プログラム 出展内容

- ・インフラメンテナンス国民会議の紹介
 - ・インフラ及びメンテナンスの大切さの紹介
 - ・メンテナンスの課題解決に向けた取り組み事例紹介
- 1) ピッチイベントでメンテナンスの技術課題を解決しよう
 - 2) メンテナンスに携わる人たちで考えよう(官民担い手メンテナンス勉強会)
 - 3) メンテナンスの大切さを利用者に知らせ、一緒にメンテナンスしよう!
 - 4) 利用者中心のメンテナンスで地域の悩みを解決!



PR交流の様子



PR交流の様子



PR交流の様子

03 まち歩きで学ぶ防災 高校生編 「安全・安心な暮らしを支える道路の健康診断」

静岡理科大学工学部では、令和6年度SIST体験型講座【防災教育センター連携事業】として、高校生を対象に防災及び、インフラのメンテナンスの重要性を知ってもらう機会として、その趣旨から技術者育成フォーラムが共催でイベントを開催しました。今回は、「まち歩きで学ぶ防災in 掛川」として掛川市のご協力もあり、日頃何気なく通っている生活道路や橋梁の交通機能やコンディションについてじっくり観察しました。高校生だけではなく、大人チームも参加し、診断結果もワークショップ方式で発表と盛り上がりました。

日時 令和6年11月10日(日) 13:30~16:00
場所 掛川市指定文化財松ヶ岡(旧山崎家)点検フィールド:掛川城下と川沿い道路
参加者 25名 県内高校生11名、大学・高校教育関係者、掛川市、国民会議会員
プログラム 開会挨拶

静岡理科大学 大学広報委員会・防災教育センター

道路の健康診断についてと点検方法と注意事項

● 講師

中澤 博志(理工学部土木工学科教授/防災教育センター長)

インフラメンテナンス国民会議技術者育成フォーラム企画委員(道路・橋梁専門)

現地フィールドを徒歩点検(高校生班 3チーム 大人班 1チーム)

会場にて点検のまとめと発表(参加者全員でのワークショップ方式)

閉会(全体講評)



徒歩点検の様子



徒歩点検の様子



会場でのワークショップの様子



ワークショップの成果物発表の様子

技術者育成フォーラム

04 「官民連携によるまちづくりの実践からのインフラ維持管理」のトークセッションに参画

前橋市で開催された関東フォーラムイベントの第2部として、「馬場川通り周辺含む維持管理」をテーマとするトークセッションに参画しました。実際に馬場川通りプロジェクトを現地散策し、会場では、官民連携によるまちづくりの実践の中から、官、市民、民間事業者と共に作り上げるプロセスに特にフォーカスし、地域の発展を牽引するための価値創出や担い手の育成について意見交換し、これからの持続可能な維持管理について考える機会としました。

- 日時** 令和6年11月27日(水) 16:00~17:30
場所 前橋プラザ元気21(群馬県前橋市)
参加者 約70名 自治体、大学、企業、国民会議会員、関東フォーラム関係者
プログラム 馬場川通りプロジェクト散策
- テーマ
「馬場川通り周辺含む維持管理について」
 - コーディネーター
鈴木 泉 技術者育成フォーラムリーダー
 - パネラー
日下田 伸(一般社団法人前橋デザインコミッション局長)
佐藤 弘達(前橋市都市計画部市街地整備課官民連携まちづくり係副主幹)
長山 智則(東京大学大学院工学系研究科教授)
櫻澤 拓也(ヨシモトボール株式会社技術部設計開発1課係長)
- 会場参加者とのトークセッション



プロジェクト散策ツアーの様子



トークセッション(会場)の様子



トークセッションの様子

市民参画フォーラム

インフラメンテナンスでは、地域課題への意識を共有し、解決策を見出すために、市民と行政の協働が重要となります。また、利用者が持つ地域インフラの特性に関する知識を活かし、現地のニーズにあった管理を実現するためには、産官学民の連携が不可欠となります。市民参画フォーラムは、この目的に近づくために地方や全国フォーラムと連携し、イベントやワークショップを通じて活動を進めてまいります。

01 インフラマネジメントテクノロジーコンテスト2024(略称 インフラテクコン2024)

インフラは地域ごとの価値創造や共創を担うハブとしての役割が期待されています。その中で地域に根ざした高等専門学校や高専生が、地域課題解決のキーパーソンとして注目されています。「インフラマネジメントテクノロジーコンテスト」は、高専生が地域課題を発見し、新たなインフラの役割を考えながら企業や行政と連携する機会を提供し、人材育成を目指しています。

- 日時** 令和6年5月~令和7年3月
場所 コンテスト:オンライン 交流会:日本科学未来館
参加者 参加チーム:エントリー 41チーム(22校)【全国58校中(国公私立)】 最終 39チーム(22校)
 協賛:プラチナパートナー24団体、ゴールドパートナー25団体 共催3団体、後援14団体、協力3団体
- プログラム** インフラテクコン コンテスト本選
- ①参加表明期間:令和6年5月15日~6月17日
 - ②エントリーシート提出期間:令和6年7月1日~7月12日
 - ③最終作品募集期間:令和6年9月1日~10月11日
 - ④インフラテクコン入賞者発表:令和6年12月24日
- その他イベント**
- ①日経産業新聞『高専に任せろ2024』:令和6年11月26日
 - ②社会インフラテック2024:令和6年12月4日~6日
 - ③インフラテクコン交流会:令和7年3月5日
- ・わくわく賞、プラチナ賞の発表



社会インフラテックブース出展



高専生が経営トップに聞くインフラメンテナンス



インフラテクコン交流会

市民参画フォーラム

02 サイエンスアゴラ2024

サイエンスアゴラは、あらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場の総称として毎年開催され、学生や研究者、民間企業など様々な人が集まります。今回は初めて「インフラマネジメントカードゲーム」を作成し、ゲームを通して楽しくインフラマネジメント知ってもらう機会としました。

- 日時** 令和6年10月26日(土)～27日(日) 10:00～17:00
場所 テレコムセンター
参加者 小学生～大学生、保護者等
プログラム **インフラマネジメントカードゲーム**
 ・インフラをマネジメントすることで、インフラを進化させるカードゲーム
インフラマネジメント紙芝居
 ・インフラの現状やマネジメントの必要性を説明する
橋梁恐竜カードの配布
 ・恐竜が橋梁の点検をしている様子などが描かれているトレーディングカード



ブースの様子



カードゲームの様子①



カードゲームの様子②



スタッフメンバーの様子

03 大学ゼミ講習会「インフラの大切さとメンテナンスの重要性の理解を深める」

「インフラ開発」をテーマとした大学ゼミの1コマをいただき、インフラの現状やメンテナンス、市民参加の大切さを伝える講習会を行いました。インフラマネジメントカードゲームの実演も行い、市民に理解してもらう工夫や企画を紹介し、効果的な方法について意見交換を行いました。

- 日時** 令和6年10月10日(木) 11:15～13:00
場所 拓殖大学 八王子キャンパス
参加者 11名
プログラム **インフラに関連する厳しい現状**
 ・施設数
 ・維持管理・更新費用
 ・地方財政の課題
取組
 ・若手技術者の育成
 ・市民向けイベントへの参加紹介
オリジナルゲームの実演
 ・橋梁維持管理カードゲーム
 ・インフラマネジメントカードゲーム



授業の様子①



授業の様子②

海外市場展開フォーラム

メンテナンス分野の海外プロジェクトに関連する官民連携の促進や、国内外のメンテナンスに関する製品・技術・知見を有する産官学の関係者による「プラットフォーム」の構築により、メンテナンス分野における我が国企業の海外展開を図る取組を行っています。

01 日本インド・インフラメンテナンスセミナー2025

インドでは道路橋梁などのインフラの老朽化が進んでおり、メンテナンスに課題を抱えています。インフラメンテナンスの課題解決に資する観点から、インドの現状を日本企業に紹介するとともに、インド政府及び企業側から関心を示された本邦技術を紹介し、インフラメンテナンス事業への参画協働に向けて、インド政府及び企業と日本企業とのネットワーク構築をサポートする目的でセミナーを開催しました。

- 日時** 令和7年3月5日(水) 14:30～17:00
場所 インド The Claridges New Delhi
参加者 約100名
プログラム **日本における維持管理の現状**
 ・インドにおけるインフラメンテナンスの課題
 ・インドでの実証実験の結果概要
 ・課題解決型ヒアリングの実施結果について
 ・インド側のニーズに合致した本邦技術紹介



開会挨拶(日本側)の様子



開会挨拶(インド側)の様子



会場の様子

平成30年3月23日に設立し、北海道内の地方公共団体が管理する土木施設・公共施設の適切なメンテナンスを継続していくため、産学官民の技術や知恵を総動員するプラットフォームとして、活動しています。

リーダー 高野 伸栄
北海道大学大学院工学研究院 教授



01 北海道フォーラム シンポジウム 「地方でのインフラメンテナンスを考える」

公共インフラの適切なメンテナンスを継続するため、インフラの現状を再確認し、メンテナンスのノウハウや好事例などの紹介、北海道フォーラムの取組み(グループ活動等)を周知など、課題解決に向けた支援を目的に開催。主に北海道内各地や道外の自治体職員・民間事業者等、約400名にご参加を頂き、以下のとおり情報の共有及び活発な意見の交換が行われました。

- ①「北海道市町村橋梁点検マニュアル(案)改訂について」の説明では、「改訂点が判りやすく説明され、道内市町村における橋梁点検の際に役立つ」との多くの意見を頂いた。
- ②水インフラ他施設グループによる「水中ロボットによる配水池の不断水工法での調査及び清掃ドローン調査技術」に関する報告では、初めて知る聴講者もあり、技術の高さと有効性、省人・省力化、安全確保からも有益な情報提供ができた。
- ③公共施設・住宅グループによる「道内市町村における公共建築物の維持保全の現状と将来への提言」に関する報告では、公共建築物の維持管理の状況を共有することができ、メンテナンス管理に向けた課題解決策への更なる機運が高まった。
- ④自治体支援グループによる「地域PFアンケート結果、他府県におけるPFの運営内容例」に関する報告では、人口減少に伴うインフラ管理は、地域プラットフォームの有効性を示すことができた。
- ⑤「インフラメンテナンスにおける新技術導入に向けた取り組み」の説明では、新技術導入によるインフラ管理はますます必要となる反面、市町村における財政・人材負担軽減策も合わせて検討することが求められた。

参加者からはさらに、「インフラメンテナンス新技術」「全国の最新事例」「積雪寒冷地に特化した道内事例」等の紹介、「BIM/CIM」に関する技術情報等に関する情報提供の要望も高く、自治体のニーズとメンテナンス関連業者のシーズとのマッチングに向けて更なる活動を検討していくこととしています。



開会挨拶の様子



会場全体の様子



フォーラムリーダーの総括の様子

日時 令和6年11月18日(月) 14:00~16:50
場所 TKP札幌駅カンファレンスセンター(3Bホール)及びオンライン配信
参加者 約400名(うち自治体 51名)
プログラム 開会挨拶

栗田 悟(北海道フォーラム企画委員長/一般財団法人 北海道建設業協会 副会長)

講演

講演①北海道市町村橋梁点検マニュアル(案)改訂について

藤川 大輔(一般財団法人 北海道建設技術センター 市町村支援部
市町村支援課 主査)

講演②水中ロボットによる配水池の不断水工法での調査及び清掃

田中 芳章(一般社団法人 日本水中ロボット調査清掃協会 会長)

講演③道内市町村における公共建築物の維持保全の現状と将来への提言

横山 隆(北海道フォーラム 公共施設・住宅グループ/株式会社開発工営社 技術顧問)
関 信之介(札幌市立大学大学院 デザイン研究科)

講演④地域PFアンケート結果、他府県におけるPFの運営内容例

縄田 健志(北海道フォーラム 自治体支援グループ/西江建設株式会社 常務取締役)

講演⑤インフラメンテナンスにおける新技術導入に向けた取り組み

倉田 紘平(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 情報企画係長)

総括

高野 伸栄(北海道フォーラムリーダー/北海道大学大学院工学研究院 教授)

02 下水道管路の点検・調査ドローンデモンストレーション in旭川

インフラメンテナンス国民会議北海道フォーラム水インフラ他施設グループでは、道内自治体が抱える共通課題である「技術者不足」の解決に寄与する技術紹介として、旭川市の協力の下、実際の下水管路を用いた点検・調査ドローンのデモンストレーションを開催しました。

今回、紹介した技術は、第2回「インフラメンテナンス大賞」国土交通省特別賞を受賞した閉鎖性空間点検調査ドローン「AirSlider® Fi4」の発展型で、管路内に流水がある状態で点検調査可能な技術です。

日時 令和6年9月10日(火) 13:00~16:00
場所 旭川市
参加者 24団体75名
プログラム 開会挨拶

岡本 淳敏(北海道フォーラム水インフラ他施設グループ/勇建設株式会社)

概要説明

「管路・閉塞性空間の点検・調査ドローンAirSliderについて」

稲垣 裕亮(株式会社NJS 開発本部ドローン開発部)

デモンストレーション(点検調査見学)

佐藤 朝夫(株式会社北王インフラサイエンス)

管路内調査映像視聴



概要説明の様子



デモンストレーションの様子



管路内調査映像視聴の様子

東北フォーラムは、インフラを良好な状態で持続的に活用することを目指し、平成30年4月27日に設立されました。産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、活動しております。

リーダー 石川 雅美
東北学院大学工学部 教授



01 令和6年度マッチングイベント in 南相馬

マッチングイベントin仙台に続いて、福島県南相馬市にてマッチングイベントを開催しました。開催会場の福島ロボットテストフィールドは世界に類を見ない陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点です。ロボットの性能評価や操縦訓練等が可能で、実際に劣化を再現した試験用の橋梁等の構造物を設置しており、ロボットによるインフラの点検試験が行える環境であるため今後のインフラメンテナンス技術開発の促進に繋がることと期待される施設です。イベント開始前には希望者を対象に施設見学もあわせて行いました。

マッチングイベントでは、福島ロボットテストフィールドの誘致自治体の南相馬市による橋梁維持管理業務のデジタル化に向けた官民連携の実証事業についての講演、および東北フォーラム企画委員によるアスファルト舗装の破損原因と対策についての講演が行われたほか、行政会員からの舗装補修に関するニーズ発表が行われました。いずれも開催地福島県内の自治体から発表いただき、冬期間の舗装劣化や、繰り返し発生する劣化などのニーズが発表されました。ニーズに応える形で、企業会員から舗装3件、橋梁1件のシーズ紹介をいただきました。舗装では、「舗装ポットホールセルフメンテナンス術」、「既設舗装への新しい延命技術の紹介」、「寒冷地におけるアスファルト舗装の維持修繕」についてシーズ紹介が行われました。今回は自治体からのニーズが多い舗装補修に焦点をあて企画したところ、現地参加108名、WEB参加約103名と多くの方にご参加いただきました。今後も引き続き、ニーズの把握とシーズの募集を行っていくほか、シーズ技術の実装やマッチング方策について検討を図ります。また、今回取り上げた舗装補修の続編として、令和7年度に舗装の簡易補修、セルフメンテナンスをテーマとした実証実験を予定しています。

日時 令和7年1月28日(火) 10:30~12:30
場所 福島ロボットテストフィールド カンファレンスホール
参加者 約211人(行政会員、企業会員、団体会員等)
プログラム 開会挨拶

石川 雅美(東北フォーラム リーダー/東北学院大学 教授)

講演

講演①【橋梁維持管理業務のデジタル化に向けた実証事業】

福島県 南相馬市

講演②【アスファルト舗装の破損原因とその対策】

東亜道路工業株式会社/東北フォーラム企画委員

ニーズ発表

【舗装の維持管理】

福島県 会津坂下町

【舗装の長寿命化】

福島県 鏡石町

シーズ紹介

①舗装部門

・ヒートロック工業株式会社

・ニキレキ株式会社

・株式会社ガイアート東北支店

②橋梁部門

・パシフィックコンサルタンツ株式会社 情報事業部

閉会挨拶

遠藤 敏雄(東北フォーラム 企画委員長/株式会社復建技術コンサルタント)

※イベント前に福島ロボットテストフィールドの見学会もあわせて実施。



石川リーダーによる挨拶の様子



南相馬市 土木課長による講演



シーズ紹介の様子

02 令和6年度マッチングイベント in 仙台

東北の地方公共団体が抱えるインフラの維持管理に関する課題・悩みなどの解決の糸口とすべく、企業が所有する技術などを紹介するマッチングイベントを対面・オンライン併催方式で開催しています。in仙台では、道路メンテナンスについての講演や、自治体から寄せられた3つのニーズとマッチングする9件のシーズ技術紹介が行われました。今後はイベント内で紹介した技術が実際に自治体で注目されたか等の事後調査を行い、今後の活動に活かしていきたいと思います。

日時 令和6年7月18日(木) 14:00~17:00
場所 仙台国際センター 会議棟 3F 白樺
参加者 約130名(行政会員、企業会員、団体会員等)
プログラム 開会挨拶

石川 雅美(東北フォーラム リーダー/東北学院大学 教授)

講演【道路メンテナンスをめぐる最近の話題】

東北地方整備局 道路部 道路保全企画官

ニーズ発表

宮城県 仙台市

福島県 郡山市

秋田県 大潟村干拓博物館

シーズ紹介

①人の手を使わない公共インフラの点検技術やモニタリング技術

・西松建設株式会社

・株式会社復建技術コンサルタント

・株式会社建設技術研究所

・株式会社福山コンサルタント

・株式会社クボタ

②道路陥没について

・ジオ・サーチ株式会社

③鳥への対策について

・一般社団法人日本イノシシコンサルタント協会

④建築物の雨漏りについて

・森村金属株式会社

・太陽工業株式会社

閉会挨拶

遠藤 敏雄(東北フォーラム 企画委員長/株式会社復建技術コンサルタント)



ニーズ発表の様子



シーズ紹介の様子①



シーズ紹介の様子②

03 建設技術公開【EE東北'24】出展

東北フォーラムの活動内容や、国民会議の会員となるメリット等について、地方公共団体や企業に向けて情報発信を行いました。また、過去にマッチングイベントで取り上げたシーズについての紹介やインフラメンテナンスに関するアンケート調査を実施しました。アンケートの結果、大多数の方がインフラメンテナンスに関して興味や関心を持っているとわかり、広報活動の重要性を実感しました。今後も引き続きPRに取り組みます。

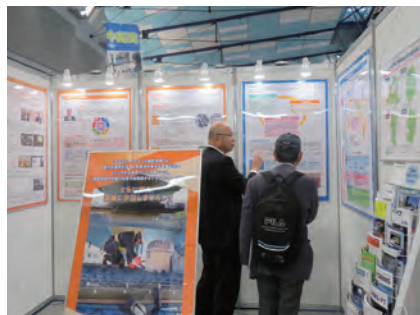
- 日時** 令和6年6月5日(水)～6月6日(木)
- 場所** 夢メッセみやぎ
- 参加者** 約300名(ブース来場者及びアンケート回答者)
- プログラム**
- ・インフラメンテナンス国民会議の概要
 - ・東北フォーラムの概要
 - ・市区町村長会議の概要
 - ・国民会議の会員数と内訳
 - ・東北フォーラムの入会状況について
 - ・過去に開催したマッチングイベントの概要
 - ・過去に開催した実証実験の概要



展示内容



出展ブースの様子①



出展ブースの様子②

関東フォーラム

インフラメンテナンスに関する地方公共団体及び産業等の育成・活性化を支援し、インフラメンテナンス国民会議の取り組みを地方レベルで推進させることを目的として、関東フォーラムを平成30年3月29日に設立しました。

令和7年3月より、「関東地方フォーラム」は「関東フォーラム」へと名称を変更することとなりました。今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

リーダー 長山 智則
東京大学 教授



01 前橋市道路建設課保全係と課題解決に向けた試験施工の実施

前橋市が保有する橋梁(草作橋)における伸縮装置の簡易的な補修材料および工法の試験施工を実施しました。

テーマ:小規模橋梁伸縮装置の簡易補修工法の選定、橋梁伸縮装置に代わる止水工法

今回は、株式会社ガイアート社「ニンジャシール」を1事例として、前橋市道路建設課、地元施工業者及び建設コンサルタント立会いのもとに試験施工を実施しました。コスト、施工性、耐候性、安全性等を確認し、参加者自らが簡易的に維持補修を行う際の1つの手法として、具体的なイメージを持っていただきました。

- 日時** 令和6年6月11日(火) 13:00～15:00
- 場所** 群馬県前橋市元総社町1496 市道17-858 草作橋
- 参加者** 前橋市ほか自治体、地元コンサル、その他6民間企業 約50名
- プログラム**
- 現場試験施工**
- ①開会あいさつ(国土交通省関東地方整備局)
 - ②草作橋の概要について(前橋市)
 - ③製品・工法説明(株式会社ガイアート)
 - ④試験施工の実施(前橋技工有限会社)
 - ⑤講評(前橋市)



挨拶、説明の様子



挨拶、説明の様子



試験施工の様子



イベントの様子

関東フォーラム

02 「自治体との連携イベント」前橋市における
維持管理事例発表、馬場川プロジェクト

インフラメンテナンス国民会議関東フォーラムと前橋市は、維持管理の効率化・課題解決に向けて令和5年から連携し、これまで1on1ミーティングによるマッチングイベントや試験施工をおこなってきました。第一部では、それらの成果も含め、維持管理の取組みを紹介しました。

第二部では、馬場川通りプロジェクトにおける官民連携の具体的な事例から見えるまちづくりの維持管理についての意見交換を中心としたプログラムになります。プロジェクトの特徴として、工事【ハード】は、民間の寄付金と国の補助により共同設立された前橋市アーバンデザインファンドの助成金を活用し、設計計画や「まちづかい」のための社会実験等の【ソフト】部分は、前橋市SIB事業や国交省補助金も活用しています。

取組みのまとめから今後の展開について共有していき、好事例や改善点は他の自治体にとっても貴重な情報となる可能性が大きいと考えます。

自治体間の連携に繋げていき、包括的民間委託や群マネを検討するきっかけにもしていきます。

★インフラメンテナンス国民会議関東フォーラムイベントを終えて

・自治体維持管理担当者より:前橋市の各発表や企業ブースではメーカー担当者と直接話もできたので、参加してよかった。

・群馬県内コンサル担当者より:第二部のセッションが特に自社の取組みに参考になった。

☆その他:次回の開催を期待するなど、参加者にとって有意義なイベントになったと感じています。

日時 令和6年11月27日(水) 13時30分～17時30分
場所 前橋元気プラザ21 1階 にぎわいホール
参加者 民間企業 自治体含め約70名
プログラム **第一部**

- ①開会あいさつ (前橋市)
- ②関東フォーラムの取組みの紹介 (フォーラムリーダー)
- ③インフラ維持管理の実践(前橋市)
- ④前橋市の橋梁維持管理手法(前橋市)
- ⑤群馬県の先進的な維持管理の活用に向けて(群馬県)
- ⑥第一部講評(国土交通省 関東地方整備局)

馬場川散策ツアー**第二部**

- ①馬場川プロジェクトについて(都市再生推進法人)
- ②馬場川通り周辺に含む維持管理について
 - コーディネーター(技術者育成フォーラムリーダー)
 - パネラー(都市再生推進法人、前橋市、フォーラムリーダー、ヨシモトボール)
- ③閉会挨拶(フォーラム企画委員)



第一部イベントの様子



第一部イベントの様子



馬場川散策ツアーの様子



第二部イベントの様子



第二部イベントの様子



第二部イベントの様子

北陸フォーラム

主に自治体が抱える課題に関する知識を深めるとともに人材交流により課題解決を見いだすことを目的とし、平成30年3月26日に設立しました。

活動にあたっては、産官学民協力して取り組む他、メンテナンス会議など既存組織で取り組んでいる活動と連携し、取り組むものとしております。

当フォーラムを、自治体がインフラマネジメントについて相談できる場として活用いただけるよう、自治体との連携方法を模索しながら活動をしています。

リーダー 丸山 久一
長岡技術科学大学 名誉教授

01 北陸インフラメンテナンスフォーラム
富山・石川ブロック“小会議”

当フォーラムでは、地方自治体が抱えるインフラメンテナンスの課題(ニーズ)を解決するため、民間企業等が保有する技術(シーズ)のマッチングを進めているところですが、今回インフラの維持管理を行う自治体の「担当者の声」をテーマに、インフラメンテナンスの実態、課題等を発表いただき、北陸SIPの取組みや、国土交通省による群マネの取組みについて情報共有いただきました。

日時 令和6年11月19日(火) 10:00～12:00
場所 富山県防災危機管理センター
参加者 会場39名、オンライン88名
プログラム **開会挨拶**

宮里 心一(北陸インフラメンテナンスフォーラム富山・石川ブロックリーダー/
金沢工業大学工学部 教授)

能登半島地震現状報告と群マネの紹介・全国の取組み

松川 武彦(国土交通省 北陸地方整備局 事業調整官)

市町村のインフラメンテナンスの現状と北陸SIPの取組み

北陸インフラメンテナンスフォーラム

富山・石川ブロックリーダー

宮里 心一(金沢工業大学工学部 教授)

自治体の課題(ニーズ)紹介

①インフラ管理者の取組みと課題

北 篤志(宝達志水町 地域整備課 主幹)

②富山市の持続可能な橋梁マネジメント

藤田 博樹(富山市 建設部 道路構造保全対策課 主査)

質疑応答

閉会



宝達志水町発表の様子



富山市発表の様子



登壇者、会場参加者による集合写真

北陸フォーラム

02 【大雪のため延期】北陸インフラメンテナンスフォーラム

11月19日に開催した富山・石川ブロック小会議において発表いただいた自治体（富山市、宝達志水町）の課題（ニーズ）を受けて募集した、自治体職員の維持管理業務における効率化、省力化に資する技術について各企業より発表いただくことで調整していました。

- 日時** 令和7年2月20日（木）13:30～17:00
場所 富山県防災危機管理センター
参加者 約160名
プログラム **開会挨拶（北陸フォーラムの趣旨説明）**
丸山 久一（北陸インフラメンテナンスフォーラム フォーラムリーダー／長岡技術科学大学 名誉教授）
講演
インフラメンテナンス国民会議の取組について
大島 邦彦（インフラメンテナンス国民会議 実行委員長）
自治体からのインフラメンテナンスに関する課題（ニーズ）紹介
課題解決案（シーズ）発表
(1)自治体の取組
皆川 哲也（新潟市 土木部 土木総務課 計画班）
(2)北陸SIP等の取組
田口 仁（福田道路株式会社 技術部 参与）
(3)募集した技術（14社22技術）
トークセッション
閉会

プログラム	
13:30 開会挨拶（フォーラムの趣旨説明） 丸山 久一氏 長岡技術科学大学 名誉教授 （北陸インフラメンテナンスフォーラムフォーラムリーダー）	
13:35 講演 インフラメンテナンス国民会議の取組について 大島 邦彦氏 インフラメンテナンス国民会議 実行委員長	
14:05 課題（ニーズ）紹介 藤田 博樹氏 富山市 建設部 道路構造保全対策課 主査 北 篤志氏 宝達志水町 地域整備課 主幹	
14:10 課題解決案（シーズ）発表 ①新潟市の取組紹介 皆川 哲也氏 新潟市土木部土木総務課計画班	
14:25 ②北陸SIP等の取組 田口 仁氏 福田道路株式会社 技術部 参与	
14:40 ③課題（ニーズ）を解決する 民間企業等の技術（シーズ）紹介 14社より技術の提案を予定 ※15:00頃（～10分）休憩	
16:20 トークセッション 【司会】丸山 久一氏 【パネリスト】佐伯 竜彦氏 宮里 心一氏 大島 邦彦氏 皆川 哲也氏 藤田 博樹氏 北 篤志氏 【オブザーバー】松川 武彦氏（北陸地方整備局 事業調整室長）	
16:55 閉会挨拶 宮里 心一氏 金沢工業大学 教授	
[共催] 北陸インフラメンテナンスフォーラム 国土交通省北陸地方整備局	
[後援] 新潟県 富山県 石川県 （公社）土木学会中部支部（公社）土木学会関東支部 （一社）新潟県建設業協会（一社）富山県建設業協会 （一社）石川県建設業協会（一社）日本建設業連合会北陸支部 （一社）建設コンサルタント協会北陸支部	

参加者募集フライヤー

中部フォーラム

中部フォーラムは、民間主体の事務局として平成30年1月26日に設立し、中部地方の自治体が管理する主として土木インフラについて、メンテナンスサイクルの確実な実施に向けて支援いたします。

リーダー 原田 和樹
日本工営都市空間株式会社

01 名城大学出前講座
「令和6年度 施設維持管理論 橋梁の維持管理と実務」

名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科の4年生を対象に、コンクリートの維持管理に関する「施設維持管理論」の1コマとして、実務的な観点から「橋梁維持管理の実例」について出前講座を行いました。2021年度から毎年開催をしており、今回で4回目となりました。

授業では、橋梁の点検や補修設計といった実際の業務を紹介し、学生の皆さんに橋梁維持管理に関わる実務について学んで頂きました。講義の後に出席した学生にレポートと講義に対する質問を提出いただき、すべての質問に対し回答をしました。

- 日時** 令和6年5月28日（火）10:50～12:20
場所 名城大学 H204講義室
参加者 25名（大学4年生）
プログラム **インフラメンテナンス国民会議 中部フォーラムについて**
原田 和樹（日本工営都市空間株式会社）
橋梁維持管理概論
伊藤 均（八千代エンジニアリング株式会社）
橋梁維持管理の動向
古澤 栄二（株式会社ティコク）
橋梁維持管理 実務の事例紹介
①床版取替え設計:ASRと凍害の複合劣化で傷んだ床版の取換え
②NEXCO高速道路の橋梁維持管理
杉原 啓介（大日コンサルタント株式会社）
③塩害地区の橋梁補修設計
角川 智哉（日本工営都市空間株式会社）
受講レポートの記入、質疑応答



講義の様子①



講義の様子②

02 みんなでぬりかえ、未来へつなぐ安心の橋 ～プロジェクト1184～

インフラの維持管理をしていくための予算や人の確保が厳しい環境にある中、地域住民を交えたインフラメンテナンスの仕組みづくりをしていきたいとの町の想いを実現すべく、七宗町建設課と中部フォーラムで歩道橋高欄の塗装塗替えイベントを企画しました。本イベントでは、以下の開催目標を掲げました。

- ① 子供たちに、橋梁の塗装塗替え作業を通じて土木について学んでほしい
- ② これを機に、生徒の親や地元の方々がインフラに興味を持ってほしい
- ③ さらに、自分たちの手で補修することで、地元のインフラに愛着を持ってほしい

イベントは座学と塗装塗替え実習の2部構成とし、七宗町立上麻生小学校の5年生と6年生の19名が参加しました。

座学では、七宗町が管理する橋の現状を知ってもらうべく、手始めクイズを抜き打ちで実施しました。その後、土木に関する動画を視聴し、橋の劣化やその直し方を通して定期的な維持管理の必要性を学びました。クイズには担任の先生や校長先生、教育長にも参加してもらいましたが、全問不正解の大人もいて、地域インフラのことを広く知ってもらう必要があることを再認識しました。

塗装塗替え体験では、子供たちが5班に分かれチーム戦で塗装の腕を競いました。塗装色は子供たちが選んだ七宗町のシンボルカラーである青緑色としました。ピブスを付けてチームを分けましたが、大人サイズの防護服を着ると、誰が誰だか先生しか分からない状況に。それでも、地元建設業の丸ス産業(株)の指導のもと、ひとり1スパンを担当して手際よく約1時間で塗装塗替えを完了しました。途中、近隣住民の方々が応援に訪れました。高欄の外側や塗り残した部分は、町職員が中心となって大人たちで仕上げました。

後日、最優秀チームに対し、町長から表彰状が授与されました。本イベントの様子は地元新聞紙で大きく取り上げられ、子供たちの記憶に残るイベントになりました。

日時	令和6年11月19日(火) 9:30～12:00
場所	岐阜県加茂郡七宗町内
参加者	19名(上麻生小学校5,6年生)、七宗町役場、丸ス産業(株)、中部地方整備局
プログラム	挨拶 朝日 信幸(七宗町役場) 座学 中村 亮太(大日コンサルタント株式会社) 塗装実習 小栗 一成、鈴木 貴幸、大西 大輔(丸ス産業株式会社)



座学の様子



塗装塗替え実習の様子



塗装完了後の集合写真

03 愛知工業大学出前講座 「施設維持管理論 インフラ施設の維持管理と実務」

愛知工業大学工学部社会基盤学科の3年生を対象に、「セミナー人と自然」の1コマをいただき、インフラ施設の維持管理と実務に関する出前講座を実施しました。

講義では、インフラ施設の維持管理の現状、土木構造物や舗装の点検、補修設計などの実務について説明を行いました。

また、建設コンサルタント、総合建設業、道路舗装業界の説明も併せて実施し、受講後のアンケートでは多くの学生から「仕事内容が理解できた」との回答をいただき、有意義な講座となったことが確認できました。

日時	令和6年12月2日(月) 13:00～14:30
場所	愛知工業大学 1号館501号室
参加者	109名(大学3年生)
プログラム	インフラメンテナンス国民会議 中部フォーラムについて 鈴木 正樹(中央コンサルタンツ株式会社) 土木業界説明 ①建設コンサルタント 伊藤 均(八千代エンジニアリング株式会社) ②総合建設業 伊藤 貴宏(戸田建設株式会社) ③道路舗装 田中 実(東亜道路工業株式会社) 施設維持管理、実務の事例紹介 ①調査・設計編 伊藤 均(八千代エンジニアリング株式会社) 杉原 啓介(大日コンサルタント株式会社) ②土木工事編 伊藤 貴宏(戸田建設株式会社) ③舗装編 田口 克也(ニチレキ株式会社) 受講レポートの記入、質疑応答



講義の様子①



講義の様子②

中部フォーラム

04 インフラの包括的な維持管理に関する自治体支援セミナー
～地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）の普及に向けて～

中部フォーラムではこれまで、インフラの効率的な維持管理や課題解決に向けた自治体支援として、官民連携などを題材に事例紹介やパネルディスカッションを開催してきました。令和5年度には2月に、実務者による「包括的民間委託の実践に向けて」と題した自治体向けセミナーを開催しました。

令和6年度のセミナーとしては、自治体職員を中心の対象とし、建設コンサルタンツ協会と市区町村長会議中部ブロックとの共催という形で、インフラ維持管理の新しいフェーズに向けた“群マネ”普及セミナーを開催しました。

日時	令和7年1月31日（金）13:00～16:30
場所	桜華会館会議室
参加者	対面 70名、WEB 約380名、合計450名
プログラム	開会挨拶 原田 和樹（中部フォーラムリーダー） 濱田 禎（国土交通省 中部地方整備局 企画部） インフラメンテナンス国民会議中部フォーラムの取組 鈴木 正樹（中部フォーラム） 建設コンサルタンツ協会アセットマネジメント専門委員会からの研究報告 土井 達朗（一般社団法人建設コンサルタンツ協会） 社会資本の老朽化の現状と維持管理の必要性 水野 高志（一般社団法人建設コンサルタンツ協会※） ※地域インフラ群再生戦略マネジメント実施手法検討会委員 中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組） 西尾 直伸（明和町） パネルディスカッション ●ファシリテーター 沢田 和秀（岐阜大学） ●パネリスト 水野 高志（一般社団法人建設コンサルタンツ協会群マネ実施手法検討会委員） 西尾 直伸（明和町）（国土交通省 中部地方整備局 企画部） 中村 政則（恵那市） 河野 雅臣（インフラメンテナンス市区町村長会議中部ブロック幹事：大野町） 総括（閉会挨拶） 河野 雅臣（インフラメンテナンス市区町村長会議中部ブロック幹事）



セミナーの様子



パネルディスカッションの様子



WEB参加の様子

近畿本部フォーラム

（平成28年12月15日に設立）「情報ワーキンググループ」では、令和6年3月末までにフォーラムを11回、ピッチイベントを9回、実証実験を23回開催し、「包括的民間委託等の推進ワーキンググループ」では、大阪府下の自治体職員を対象にした「地域インフラの持続的な維持管理を考える会」を4回開催、（公財）兵庫県まちづくり技術センターの要請で自治体職員向けの勉強会への講師派遣や国土交通省のハンズオン支援事業に対してアドバイザーを派遣する等、実りある活動を展開することができました。

リーダー 片岡 信之
一般社団法人 国土政策研究会 理事
兼 関西支部事務局長

01 情報ワーキンググループ
第24回実証実験 大阪府

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において実験を行い、技術の検証を行いました。

日時	令和6年4月25日（木）13:00～16:00
場所	富田林土木事務所 ※実証実験報告会
参加者	施設管理者:5名（大阪府） 実験実施者:4名（株式会社ウォールナット） 5名（ジオ・サーチ株式会社） 事務局:4名（国土政策研究会） 国土交通省:5名（近畿地方整備局） メンター:1名（近畿情報ワーキング長） 取材:1名（日刊建設工業新聞 大阪支社） 出席者合計25名

プログラム

施設管理者 大阪府
求める技術 護岸背面の空洞調査技術
実証実験者① 株式会社ウォールナット
シーズ技術① レーダーアンテナを搭載した壁登りドローンにより、電磁波による非破壊調査によって護岸全体の状態を把握する技術
実証実験者② ジオ・サーチ株式会社
シーズ技術② 路面から3m程度まで探査可能な路面下空洞探査車を使用し、護岸背面の空洞箇所を検出する技術



質疑応答の様子



屋外実験の様子①



屋外実験の様子②

02 近畿本部フォーラム2024

「インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム2024」は、近畿本部フォーラムが毎年5月に開催する、インフラメンテナンス技術を有する企業と施設管理者のマッチングを目的とした展示会です。

業界と自治体を始め、学生等も巻き込んで多くの方にインフラメンテナンスについて考えていただくきっかけを作り、産学官民が一丸となってインフラメンテナンスに取り組む社会の実現を最終目標として、インフラメンテナンスに関する技術や最新研究を有する企業や団体を主な出展社として募集し、技術・サービス・商品の紹介や、建機・先進技術のデモンストレーションなどが行われました。

あわせて、インフラメンテナンス・建設業界の知識共有の活性化の一環として、専門家による講演やシンポジウムなども開催しました。

近畿本部フォーラムとして一貫して、持続可能で快適な都市・地域づくりを目指す上で、“管理者側のインフラ維持管理の課題”と“民間企業側の技術管理者”のマッチングを目指してきましたが、それをより多くの人々が実のある体験として一度に様々な情報交換を行える場所、という大きな利点が、このリアルで開催される展示会にはあると考えております。

また、昨今の人手不足はインフラメンテナンス業界でも問題となっていることから、学生の招致を行い、企業のリクルート活動の場としても活用できるようにしました。

会場は出展社さまから希望も多かった場所で、技術やサービスを存分に展示、PRしていただける機会となったと思います。

来年も特別ゲストによる基調講演、シンポジウムなど、たくさんの施設管理者様の集客を行うイベント企画盛り沢山で開催予定です。

日時 令和6年5月23日(木) 10:00~17:00(開場9:30)

令和6年5月24日(金) 10:00~17:00

場所 花博記念公園鶴見緑地内/ハナミズキホール周辺

参加者 【来場者数】5月23日 来場者数 5,205名
5月24日 来場者数 5,610名

【出展社数】112団体

プログラム

●5月23日

基調講演

「i-Construction2.0~建設現場のオートメーション化~」

森下 博之(国土交通省 大臣官房参事官(イノベーション))

「近畿地方整備局のインフラ整備について」

長谷川 朋弘(国土交通省 近畿地方整備局長)

「インフラの今とこれから~メンテナンスとインフラ投資~」

谷口 博昭(一般社団法人 国土政策研究会 会長)

同時開催

インフラメンテナンス市区町村長会議 近畿ブロック「第3回 総会」

●5月24日

特別講演

「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)について」

東川 直正(公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 理事・副事務総長)

近畿本部フォーラム 情報WG 実証実験報告会

シンポジウム

「インフラメンテナンス本格化時代における自治体技術者のあり方」

同時開催

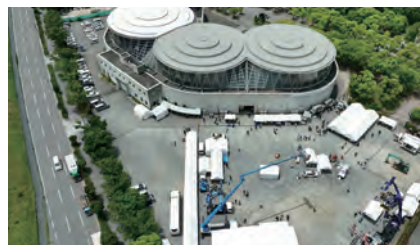
近畿管内道路メンテナンス会議



開会式 テーパカット



5月23日の基調講演



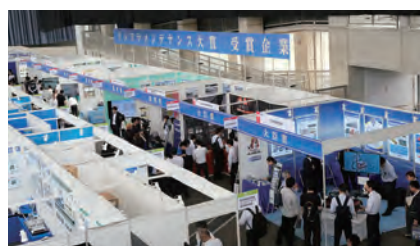
会場俯瞰



プログラム&会場案内



屋外展示の様子



屋内展示の様子

03 包括的民間委託等の推進ワーキンググループ 【シンポジウム】インフラメンテナンス本格化時代における自治体技術者のあり方

老朽化するインフラ、激甚化する災害、限られた人員と予算。

これらの課題を克服し、持続可能な地域インフラを維持していくためには、新技術の導入や民間企業の専門性の活用が不可欠です。

本イベントは、自治体技術者がこれらの課題にどのように向き合い、地域住民の安全・安心な暮らしを守るべきか、共に考え、未来への道筋を拓くことを目的としています。

日時 令和6年5月24日(金) 15:00~16:30

場所 インフラメンテナンス国民会議「近畿本部フォーラム2024」会場内(花博記念公園鶴見緑地内/花博記念ホール)

参加者 地方公共団体の職員

プログラム

話題提供①

総力戦で取り組むインフラマネジメント~持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて~

岩井 聖(国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課 企画調整官)

話題提供②

いまこそ再認識すべき技術職員の存在価値

倉田 哲郎(大阪大学社会技術共創センター 招聘教授(前箕面市長、現クモノスコーポレーション副社長))

パネルディスカッション

どうする?自治体のインフラメンテナンス技術者!

●コーディネーター

板倉 信一郎(インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム

包括的民間委託等の導入推進WG長)

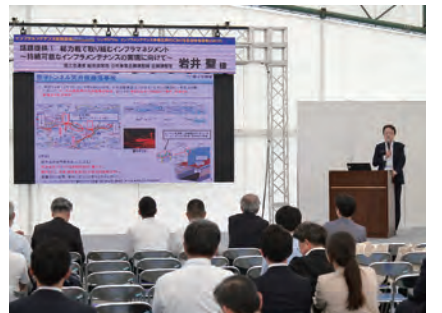
●パネリスト

中津留 幸紀(川西市 道路補修担当課長)

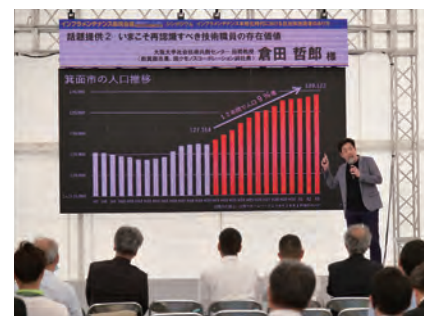
大前 貴広(十津川村 建設課長)

坂野 昌弘(NPO橋守支援センター理事長)

藤輪 友宏(兵庫県まちづくり技術センター但馬事務所長)



話題提供の様子①



話題提供の様子②



パネルディスカッションの様子

04 包括的民間委託等の推進ワーキンググループ 第6回地域インフラの持続的な維持管理を考える会開催

地域インフラの持続的な維持管理に関心のある産官学有志の方々が共に学び、意見交換できる場として開催しました。

日時 令和6年5月24日(金) 17:00~

場所 インフラメンテナンス国民会議「近畿本部フォーラム2024」会場内(花博記念公園鶴見緑地内/花博記念ホール)

プログラム

意見交換の実施



05 情報ワーキンググループ 第25回実証実験 大阪府

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において実験を行い、技術の検証を行いました。

日時 令和6年7月22日(月) 14:00~16:00
場所 京都府府民ホール ※実証実験報告会
参加者 施設管理者:4名(京都府)
実験実施者:2名(株式会社九検)
1名(株式会社ウォールナット)
3名(ジオ・サーチ株式会社)
事務局:4名(国土政策研究会)
国土交通省:4名(近畿地方整備局)
メンター:1名(近畿情報ワーキング長)
取材:1名(建通新聞社)
出席者合計20名



質疑応答の様子①



技術説明の様子



質疑応答の様子②

プログラム

施設管理者 京都府
求める技術 鋼板接着された床版の調査技術
実証実験者① 株式会社九検
シーズ技術① AI 技術を用いた打音検査機(PDC-200A)の維持管理への活用
実証実験者② 株式会社ウォールナット
シーズ技術② 交通規制不要の車載式レーダ手法による調査
実証実験者③ ジオ・サーチ株式会社
シーズ技術③ 路面から床板内部の状態を計測、解析できる車載式電磁波レーダー探査

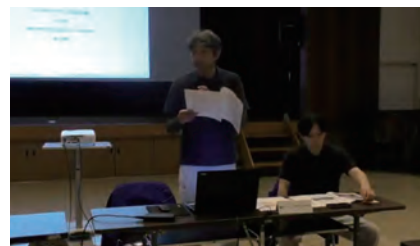
06 情報ワーキンググループ 第26回実証実験 大阪府

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において実験を行い、技術の検証を行いました。

日時 令和6年7月24日(水) 13:00~15:30
場所 太地町公民館
参加者 施設管理者:3名(太地町)
実験実施者:4名(株式会社アース・アナライザー)
事務局:3名(国土政策研究会)
国土交通省:5名(近畿地方整備局)
メンター:1名(近畿情報ワーキング長) 出席者合計16名

プログラム

施設管理者 太地町
求める技術 橋梁点検等における近接目視の代替技術(道路付属物の点検技術)
実証実験者 株式会社 アース・アナライザー
シーズ技術 道路付属物の近接目視点検に替わるUAV 空撮の活用



打ち合わせの様子



屋外実験の様子①



屋外実験の様子②

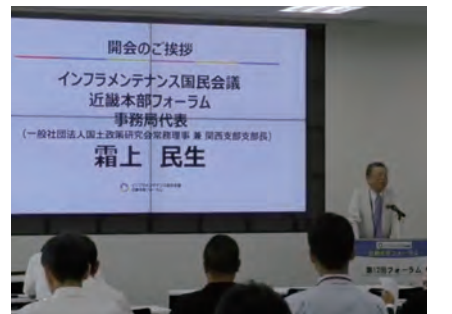
07 情報ワーキンググループ 第12回フォーラム開催

7つのテーマについて民間企業や自治体、ファシリテーターがディスカッションを行い、各自治体が抱える課題に対する解決策の方向性を模索しました。

日時 令和6年10月2日(水) 13:30~17:00
場所 近畿地方整備局 5階会議室
参加者 地方自治体:17名(伊丹市・黒滝村・河内長野市・茨木市・川西市・吹田市・大阪府・日高町・高槻市)
民間企業等:31名(25社・団体)
事務局:17名(一般社団法人国土政策研究会)
国土交通省:4名(近畿地方整備局)
メンター:1名(近畿情報ワーキング長)
出席者 合計70名

プログラム

開会挨拶
霜上 民生(インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 事務局代表)
本日の流れとワークショップの進め方についての説明
片岡 信之(インフラメンテナンス国民会議 実行委員 兼 近畿本部フォーラムリーダー)
ワークショップの実施
①コンクリート構造物において再劣化を抑制する補修技術(補修材を含む)
②橋梁点検等における近接目視(触診・打音含む)の代替え技術
③舗装の経年劣化に伴う骨材の飛散等による、舗装の損傷状況を総合的に判断できる技術
④橋梁の変位を常時モニタリングする技術
⑤都市河川で発生する浮遊汚泥(スカム)処理を自動化・遠隔化する技術
⑥港湾構造物の水 midpoint 検を効率化する技術
⑦管路内部の画像(動画)から損傷箇所を検知する技術
ワークショップの討議結果の発表
総評
坂野 昌弘(インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム情報WG長)



開会挨拶の様子



フォーラム説明の様子



討議結果まとめの様子

08 情報ワーキンググループ 第27回実証実験 大阪府

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において実験を行い、技術の検証を行いました。

日時 令和6年10月17日(木) 13:30~15:30
場所 竜王町防災センター ※実証実験報告会
参加者 施設管理者:5名(竜王町)
行政:2名(三田市)
実験実施者:2名(福田道路株式会社)
1名(ニチレキ株式会社)
事務局:3名(国土政策研究会)
国土交通省:4名(近畿地方整備局)
メンター:1名(近畿情報ワーキング長)
フォーラムリーダー:1名
出席者合計 19名

プログラム **施設管理者** 竜王町
求める技術 路面の点検が簡単に可能な技術
実証実験者① 福田道路株式会社
シーズ技術① マルチファインアイによる簡易な路面点検技術
実証実験者② ニチレキ株式会社
シーズ技術② 車にスマートフォンを搭載しひび割れ、わだち掘れ、IRI を評価する技術



技術説明の様子①



打ち合わせの様子



技術説明の様子②

09 包括的民間委託等の推進ワーキンググループ 【シンポジウム】地域インフラ群再生戦略マネジメントについて～現場に近いところで考える～

道路などの地域インフラを自治体が適切に管理していく方策として「地域インフラ群再生戦略マネジメント」が提唱され、多方面で検討が進んでいる状況です。

しかし、複数の自治体があるインフラ群を一括して維持管理する場合などにおいては様々な課題があります。

そこで、本シンポジウムでは、それらについて、論点を整理し、より現場に寄り添った解決策を出すべく、国、自治体、自治体支援団体等の方々に討議をしていただきました。

日時 令和6年11月8日(金) 15:00~16:30
場所 インテックス大阪 6号館 5階 ホールH
参加者 地方公共団体の職員

プログラム **【話題提供者】地域インフラ群再生戦略マネジメントの検討状況について**
岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)
パネルディスカッション
どうすれば自治体間連携が可能となるか? 現場に近いところで考える
●コーディネーター
板倉 信一郎(インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 包括的民間委託等の導入推進WG長)
●パネリスト
岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)
北林 昌樹(和歌山県 県土整備部 道路局 道路政策課 課長補佐兼計画班長)
橋本 尚幸(養父市 まち整備部 次長)
七野 司(貝塚市 総合政策部 公共施設マネジメント室長)



パネルディスカッションの様子①



パネルディスカッションの様子②



パネルディスカッションの様子③

10 包括的民間委託等の推進ワーキンググループ 第7回地域インフラの持続的な維持管理を考える会開催

地域インフラの持続的な維持管理に関心のある産官学有志の方々が共に学び、意見交換できる場として開催しました。

日時 令和6年11月8日(金) 16:30~
場所 インテックス大阪 6号館 5階 ホールH
プログラム 意見交換の実施

11 情報ワーキング 第10回ピッチイベント開催

令和6年10月2日に開催した、第12回フォーラムで討議したテーマ(ニーズ)に対し、シーズ技術の募集に応募のあった民間企業等から、技術に関するプレゼンテーションが行われました。

プレゼンテーションされた技術の内、施設管理者のニーズに適応する可能性が高いと判断された技術について、今後実用化の可能性を検証する実証実験の実施に向けた調整を行うことを報告しました。

日時 令和6年12月2日(月) 13:00~17:40
場所 近畿地方整備局 共用会議室1
参加者 行政(ニーズ提案):13名
行政(地方自治体等):13名
民間企業等(シーズ提案):27名(24社・団体)
民間企業等:25名(16社・団体)
事務局:6名(一般社団法人国土政策研究会)
国土交通省:6名(近畿地方整備局)
メンター:1名(近畿情報ワーキング長)
フォーラムリーダー:1名
出席者 合計92名

プログラム **開会挨拶**
霜上 民生(インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 事務局代表)
来賓挨拶
高橋 伸輔(国土交通省 近畿地方整備局 企画部長)
民間企業のプレゼンテーション
総評
坂野 昌弘(インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム情報WG長)



開会挨拶の様子



質疑応答の様子



プレゼンの様子

12 情報ワーキンググループ 第28回実証実験 兵庫県

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において実験を行い、技術の検証を行いました。

日時 令和7年2月14日(金) 14:00~16:00
場所 兵庫県庁第一号館 ※実証実験報告会
参加者 施設管理者:4名(兵庫県)
 行政関係:7名(兵庫県太子町・兵庫県
 まちづくり技術センター)
 実験実施者:3名(西日本高速道路
 エンジニアリング四国株式会社)
 事務局:3名(国土政策研究会)
 国土交通省:4名(近畿地方整備局)
 メンター:1名(近畿情報ワーキング長)
 出席者合計22名

プログラム **施設管理者** 兵庫県
求める技術 橋梁点検等における近接目視の代替え技術(打音・触診と同程度の精度が得られる技術)
実証実験者 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
シーズ技術 赤外線調査システムを使い打音・触診に代わり橋梁を点検する技術



技術説明の様子



打ち合わせの様子①



打ち合わせの様子②

13 情報ワーキンググループ 第29回実証実験 大阪府

ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において実験を行い、技術の検証を行いました。

日時 令和7年2月18日(火) 13:30~16:00
場所 富田林市若松町東1丁目9番地先(石川サイクル橋)
参加者 施設管理者:8名(大阪府)
 実験実施者:1名(東京製鋼株式会社) 2名(株式会社長大)
 事務局:4名(国土政策研究会)
 国土交通省:4名(近畿地方整備局)
 メンター:1名(近畿情報ワーキング長)
 フォーラムリーダー:1名
 出席者合計21名

プログラム **施設管理者** 大阪府
求める技術 斜張橋等のケーブル点検技術
実証実験者① 東京製鋼株式会社
シーズ技術① 全磁束法によりケーブルの劣化状況を測定する技術
実証実験者② 株式会社長大
シーズ技術② 渦流探傷試験装置を搭載したケーブル点検ロボットで内部鋼線の腐食を検査する技術



屋外実験の様子①



屋外実験の様子②



打ち合わせの様子

14 ハンズオン支援事業 令和6年度アドバイザー活動

新技術の活用による効率性の向上を図っていくことを目的にアドバイザーによる「ハンズオン支援事業」を実施しました。

支援会議(川西市)

日時 第1回 令和6年4月18日(木) 11:00~12:00
 第2回 令和6年7月2日(火) 9:00~12:00
 第3回 令和6年11月21日(木) 10:00~12:00

場所 川西市市役所及びWEB

参加者 川西市
 国土交通省(本省・近畿地方整備局)
 株式会社三菱総合研究所
 アドバイザー(インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム)



打ち合わせの様子



現地調査の様子①



現地調査の様子②

支援会議(十津川村)

日時 第1回 令和6年5月8日(水) 13:30~17:00 /
 令和6年5月9日(木) 9:00~11:30
 第2回 令和6年10月11日(金) 13:10~

場所 十津川村役場及びWEB

参加者 十津川村
 国土交通省(本省・近畿地方整備局)
 株式会社三菱総合研究所
 アドバイザー(インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム)



打ち合わせの様子



屋外実験の様子①



屋外実験の様子②

「ちゅうごく」（中国フォーラム）

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」は、インフラという地域の資産を維持するために、行政だけではなく産官学民での連携による持続可能な維持管理や予防保全の取組が重要であるとの観点から確実かつ効率的なインフラメンテナンスの実現を図ることを目的とし、2018年3月27日に設立しました。

リーダー 藤井 堅
広島大学 名誉教授



01 第13回実証試験

自治体（施設管理者）が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術等を紹介する実証試験を実施しました。

第13回実証試験では、第8回ピッチイベントで取り上げたニーズのひとつである岡山県企業局の「導水路トンネルの内部点検」という課題に対し、古河産業株式会社が有する「無人自律小型船」という調査ロボット、日本工営株式会社が有する「フロート式通水点検ロボット～モモタロウ～」という調査ロボットによる調査を岡山県企業局が管理する導水路トンネルにおいて実施しました。

日時 令和6年4月24日（水）13:00～16:00
場所 笠岡共用導水路（1号開水路（574.92m）～1号隧道（2,267.30m））
参加者 39名（内訳：ニーズ提供者5名、シーズ提供者14名、企画委員会9名、中国地方整備局2名、傍聴参加者9名）

プログラム

開会の挨拶

藤井 堅（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー）

ニーズ提供者の挨拶

藤原 章弘（岡山県 企業局 施設課 総括参事）

シーズ技術の説明

磯 洋一（古河産業株式会社 新規事業統括部門 副部門長）

松田 貞則（日本工営株式会社 流域水管理事業本部 河川水資源事業部 副事業部長）

シーズ技術による調査（調査機器の投入）

ニーズ提供者の感想

竹本 香奈（岡山県 企業局 工業用水道事務所 施設管理課 主任）

講評

宮本 文穂（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター）

閉会の挨拶

佐々田 敬久（国土交通省 中国地方整備局 企画部 広域計画課 課長）



藤原章弘総括参事によるニーズ提供者の挨拶



磯洋一氏によるシーズ技術の説明



松田貞則氏によるシーズ技術の説明

03 第13回実証試験調査結果報告会

自治体（施設管理者）が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術等を紹介する第13回実証試験を令和6年4月24日に実施しました。

第13回実証試験は、岡山県企業局の「導水路トンネルの内部点検」という課題に対し、古河産業株式会社及び日本工営株式会社が有する調査ロボットによる調査を実施したものであり、現地調査の結果についてシーズ提供者2社からの報告とともにニーズ提供者である岡山県とシーズ提供者との質疑応答を行いました。

日時 令和6年6月12日（水）14:00～16:00
場所 オンライン開催
参加者 46名（内訳：ニーズ提供者15名、シーズ提供者15名、企画委員会13名、実行委員1名、中国地方整備局2名）

プログラム

開会の挨拶

藤井 堅（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー）

実証試験の概要説明

藤井 友行（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員リーダー）

シーズ技術による調査結果の報告

高祖 智至（古河産業株式会社 共創プロジェクト推進部 マネージャー）

松田 貞則（日本工営株式会社 流域水管理事業本部 河川水資源事業部 副事業部長）

質疑応答

ニーズ提供者の感想

三浦 ちひろ（岡山県 企業局 施設課 主幹）

講評

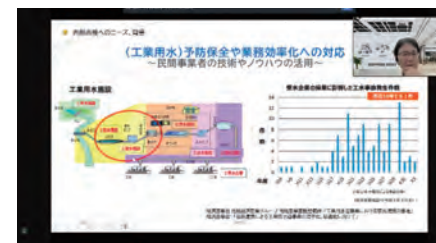
宮本 文穂（インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター）

閉会の挨拶

桑嶋 弘志（国土交通省 中国地方整備局 企画部 事業調整官）



高祖智至氏によるシーズ技術による調査結果の報告



松田貞則氏によるシーズ技術による調査結果の報告



質疑応答の様子

04 第7回クリーンプロジェクトの後援

NPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会（SLIM Japan）西日本支部が主催する第7回クリーンプロジェクトの活動を後援しました。

クリーンプロジェクトは、橋の清掃を通じてインフラメンテナンスの大切さについて関心を持ってもらうために行われている活動であり、市民活動支援として企画委員によるインフラメンテナンスに関する体験会（橋梁点検の授業、アーチ橋模型組立体験）を担当するとともに、その後の橋の清掃活動に参加しました。

日時 令和6年6月22日（土）10:00～11:45
場所 宇品橋の歩道（広島市南区）
参加者 11名（内訳：企画委員会8名、実行委員2名、中国地方整備局1名）

プログラム

楽しくインフラメンテを学ぼう

橋梁点検の授業、

アーチ橋模型組立体験

みんなで一緒に清掃メンテ活動

宇品橋の歩道の清掃

記念撮影



アーチ橋模型組立体験の様子



企画委員による清掃活動の様子



橋梁点検の授業の様子

02 橋守隊の広報活動の支援

周南市で活動する橋守隊が「つつじゆめ風車まつり」において行ったインフラメンテナンスに関する広報活動を支援しました。
支援内容は、大型橋梁点検車の提供と試乗体験会の運営であり、あわせて「ちゅうごく」の広報活動を行いました。

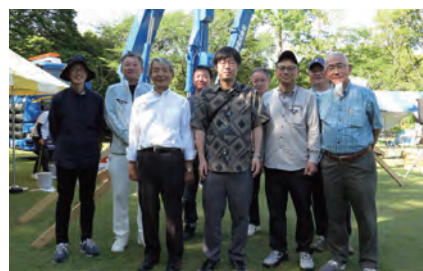
日時 令和6年5月3日（金）9:00～16:00
場所 周南市永源山公園（山口県周南市）
参加者 11名（内訳：企画委員会8名、中国地方整備局3名）



橋梁点検車の試乗体験の様子



企画委員による広報活動の様子



企画委員等の記念撮影

05 第14回実証試験

自治体(施設管理者)が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術等を紹介する実証試験を実施しました。

第14回実証試験では、第11回ピッチイベントで取り上げたニーズのひとつである島根県の「道路の防草対策」という課題に対し、早川ゴム株式会社が有する「草ゼロプレート」について、島根県が管理する県道大東東出雲線において製品の説明とともに試験施工を行いました。

日時	令和6年8月21日(水) 14:00~16:00
場所	県道大東東出雲線(松江市八雲町西岩坂地内)
参加者	17名(内訳:ニーズ提供者5名、シーズ提供者2名、企画委員会7名、中国地方整備局2名、傍聴参加者1名)
プログラム	開会の挨拶 藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー) ニーズ提供者の挨拶 田中 健也(島根県 土木部 道路維持課 係長) シーズ技術の説明 矢野 智也(早川ゴム株式会社 事業開発グループ 土木技術チーム) シーズ技術の施工 ニーズ提供者の感想 田中 健也(島根県 土木部 道路維持課 係長) 講評 藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー) 閉会の挨拶 桑嶋 弘志(国土交通省 中国地方整備局 企画部 事業調整官)



田中健也係長によるニーズ提供者の挨拶



矢野智也氏によるシーズ技術の説明



ニーズ提供者による施工体験の様子

06 第16回実証試験

自治体(施設管理者)が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術等を紹介する実証試験を実施しました。

第16回実証試験では、第11回ピッチイベントで取り上げたニーズのひとつである島根県の「トンネル点検へ新技術の活用」という課題に対し、テクノハイウェイ株式会社が有する「ひび割れおよび遊離石灰等の損傷自動検出技術 C2finder」による調査を島根県が管理する桃山トンネルにおいて実施しました。

日時	令和6年9月19日(木) 14:00~16:00
場所	桃山トンネル(出雲市大社町中荒木地内)
参加者	25名(内訳:ニーズ提供者7名、シーズ提供者2名、企画委員会11名、中国地方整備局1名、傍聴参加者4名)
プログラム	開会の挨拶 藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー) ニーズ提供者の挨拶 松浦 雅大(島根県 土木部 道路維持課 主任) シーズ技術の説明 永見 武司(テクノハイウェイ株式会社 代表取締役) シーズ技術による調査、損傷自動検出 ニーズ提供者の感想 松浦 雅大(島根県 土木部 道路維持課 主任) 講評 宮本 文穂(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター) 閉会の挨拶 石田 高嗣(国土交通省 中国地方整備局 企画部 広域計画課 課長補佐)



松浦雅大主任によるニーズ提供者の挨拶



永見武司氏によるシーズ技術の説明



シーズ技術による損傷自動検出の様子

07 インフラメンテナンス市区町村長会議 中国ブロック会議の後援

インフラの老朽化という課題に対して地方自治体の首長によるトップダウンでインフラメンテナンスを強力に推進することを目的とする「インフラメンテナンス市区町村長会議中国ブロック会議」を国土交通省中国地方整備局とともに後援したものであり、藤井堅フォーラムリーダーが「ちゅうごく」の取組と活動を紹介する講演を行いました。

- 日時** 令和6年10月28日(月) 14:00～16:30
場所 鳥取県立生涯学習センター 県民ふれあい会館1階ホール、オンライン併用
参加者 18名(内訳:企画委員会13名、実行委員1名、中国地方整備局4名)
プログラム
- 開会の挨拶**
 片岡 聡一(総社市長/インフラメンテナンス市区町村会議 中国ブロック 幹事)
 深澤 義彦(鳥取市長/インフラメンテナンス市区町村会議 中国ブロック 開催市企画委員)
- 来賓祝辞**
 池口 正晃(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長)
 林 正道(国土交通省 中国地方整備局 局長)
- 基調講演**
 ①国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組
 池口 正晃(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長)
 ②インフラメンテナンスにおける新技術の導入と人材育成～鳥取県における取り組み～
 黒田 保(鳥取大学大学院 工学研究科 教授)
- インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」取組・活動紹介**
 藤井 堅(広島大学名誉教授/インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)
- 意見発表**
 テーマ:予防保全への転換について(インフラメンテナンスに係る課題と取組)
 ● 企画委員
 深澤義彦鳥取市長、山本浩章益田市長、片岡聡一総社市長、新原芳明呉市長、藤井律子周南市長
 ● コーディネーター
 西山 哲(岡山大学学術研究院教授/公益社団法人土木学会 中国支部長)
- 閉会の挨拶**
 山本 浩章(益田市長/インフラメンテナンス市区町村会議 中国ブロック 次回開催市企画委員)



フォーラムリーダー藤井堅による講演の様子



フォーラムリーダー藤井堅による講演の様子

08 建設技術フォーラム2024 in ちゅうごく(ブース出展)

「防災・減災、国土強靱化とインフラDX～デジタル技術の変革を展開し災害に屈しない国土づくり～」と題して、防災・減災、国土強靱化に関する建設技術、それらの施策を効率的に進めるためのデジタル化に関する建設技術の技術展示や新技術・新工法などのオンラインセミナー発表を通じて、広く建設技術を紹介するものです。

「ちゅうごく」では、ブースを出展してこれまでの活動内容を紹介するとともに、インフラメンテナンス国民会議への入会案内等を行いました。

- 日時** 令和6年10月30日(水) 10:00～16:30、31日(木) 9:30～15:30
場所 広島産業会館東展示館、中国技術事務所、オンライン会場
参加者 30日 12名(内訳:企画委員会10名、中国地方整備局2名)
 31日 10名(内訳:企画委員会9名、中国地方整備局1名)



ブース前での広報の様子



インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」のブース



ブース前での広報の様子

09 あさひひまわり工房による第4回橋守活動の後援

日本ミクニヤ株式会社あさひひまわり工房が主催する第4回橋守活動をHAMADA教育魅力化コンソーシアムとともに後援しました。

橋守活動は、島根県立浜田高等学校の生徒を対象として、ひとりでも多くの生徒に土木や社会インフラに係る分野に興味を持ってもらえるようにと活動しているものであり、市民活動支援として企画委員によりインフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の活動を紹介しました。

- 日時** 令和6年11月16日(土) 13:30～17:00
場所 島根県立浜田高等学校 創立百年記念館
参加者 6名(内訳:企画委員会6名)
プログラム
- 開会挨拶**
 熊谷 修山(浜田市教育委員会 魅力化コーディネーター)
- 目的と概要**
 土屋 正隆(あさひひまわり工房 工房長)
- 座学**
 ①浜田市の社会インフラ管理の現状と課題
 中田 央(浜田市 都市建設部 維持管理課 係長)
 ②インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の活動紹介
 藤井 友行(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員リーダー)
 ③社会インフラ点検について
 富本 啓介(日本ミクニヤ株式会社 中国支店 支店長)
- 体験コーナー**
 VRゴーグル、ドローン
- 橋守体験**
 簡易橋梁点検作業、橋梁清掃作業



藤井友行企画委員リーダーによる座学



生徒による簡易橋梁点検作業の様子



企画委員による点検に係るアドバイスの様子

10 第17回実証試験

自治体(施設管理者)が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術等を紹介する実証試験を実施しました。

第17回実証試験では、第10回ピッチイベントで取り上げたニーズのひとつである福山市の「道路施設に係る台帳、点検結果、修繕履歴、要望等を一元的に管理するシステム」という課題に対し、株式会社パスコが有する「PasCAL for LGWAN 道路・要望管理」を福山市に試験的導入・運用した結果を検証しました。

日時 令和6年12月19日(木) 10:00~11:30
場所 オンライン開催
参加者 25名(内訳:ニーズ提供者3名、シーズ提供者6名、企画委員会11名、実行委員2名、中国地方整備局3名)

プログラム **開会の挨拶**
藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)
ニーズ提供者の挨拶
小原 徹(福山市 建設局 土木部 道路整備課 課長)
シーズ提供者の挨拶
高垣 浩敏(株式会社パスコ 中四国事業部 事業推進室 室長)
シーズ提供者によるシステムの概要と導入に関する説明
越智 雅己(株式会社パスコ 中四国事業部 技術センター 国土情報部 施設情報課 課長)
ニーズ提供者によるシステムの試運用に関する説明
池尻 武志(福山市 建設局 土木部 道路整備課 技師)
質疑応答
講評
宮本 文穂(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター)
閉会の挨拶
兼原 勝英(国土交通省 中国地方整備局 企画部 環境調整官)



シーズ提供者によるシステムの概要と導入に関する説明



ニーズ提供者によるシステムの試運用に関する説明



質疑応答の様子

11 第12回ピッチイベント

自治体(施設管理者)が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者等が課題解決に繋がる技術等を紹介する第12回ピッチイベント(技術提案会)を実施しました。

ピッチイベントでは、「橋梁の効率的な点検技術」、「圧送管の点検技術(漏水箇所の特定)」、「不明水を特定する技術」、「法面崩壊等の対策」という4つの課題に対し、民間事業者延べ9社が自社製品やサービスの紹介を行い、紹介された技術に対して施設管理者から積極的な質疑(施工条件、価格等)等、意見交換が行われました。

日時 令和7年1月21日(火) 13:30~16:40
場所 鳥取市民交流センター 多目的室1、オンライン併用
参加者 78名(内訳:ニーズ提供者15名、シーズ提供者15名、企画委員会12名、実行委員1名、中国地方整備局3名、傍聴参加者31名、マスコミ1名)

プログラム **開会の挨拶**
宮本 文穂(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター)
ピッチイベントにおける留意事項
インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員会
プレゼンテーション
自社製品やサービスの紹介希望者(全9社)
講評
宮本 文穂(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター)
閉会の挨拶
兼原 勝英(国土交通省 中国地方整備局 企画部 環境調整官)



プレゼンテーションの様子



プレゼンテーションでの質疑応答の様子



兼原勝英環境調整官による閉会の挨拶の様子

12 第13回ピッチイベント

自治体(施設管理者)が抱える施設管理に関する課題に対し、民間事業者等が課題解決に繋がる技術等を紹介する第13回ピッチイベント(技術提案会)を実施しました。

ピッチイベントでは、「街路樹の道路建築限界への侵入を把握する技術」、「マニュアルや取扱説明書、図面などを電子化、Web化」、「鋼橋の塗膜剥離剤」、「獣害対策」等の6つの課題に対し、民間事業者延べ10社が自社製品やサービスの紹介を行い、紹介された技術に対して施設管理者から積極的な質疑(施工条件、価格等)等、意見交換が行われました。

日時 令和7年1月29日(水) 13:30~17:20
場所 復建調査設計株式会社 別館大会議室、オンライン併用
参加者 58名(内訳:ニーズ提供者11名、シーズ提供者15名、企画委員会10名、実行委員2名、中国地方整備局4名、傍聴参加者16名)

プログラム **開会の挨拶**
藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)
ピッチイベントにおける留意事項
インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員会
プレゼンテーション
自社製品やサービスの紹介希望者(全10社)
講評
宮本 文穂(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター)
閉会の挨拶
兼原 勝英(国土交通省 中国地方整備局 企画部 環境調整官)



プレゼンテーションの様子



プレゼンテーションでの質疑応答の様子



メンター宮本文穂による講評の様子

四国フォーラム

インフラメンテナンス国民会議「四国地方フォーラム」は、四国地方4県の自治体及び建設コンサルタントが主体となり、平成29年12月26日に設立されました。地方自治体の課題に対し、民間企業が解決策となる技術を提案し、議論を深めて支援していきます。

リーダー 矢田部 龍一
愛媛大学 名誉教授



01 第6回四国地方フォーラムピッチイベント

行政会員が抱えるインフラに関する悩み（ニーズ）の解決を図るため、企業会員の保有する技術やノウハウ等（シーズ）をマッチングさせることを目的に開催し、香川県及び三豊市のニーズに対して4企業よりシーズの提案がありました。

日時 令和6年11月7日（木）
場所 サンポートホール高松 第2小ホール（高松市）
参加者 自治体、企業、県など関係者（約140名）
プログラム ニーズ紹介

香川県、三豊市

シーズ紹介

『舗装3要素を全自動解析できる簡易路面調査システム』

『葛の巻きあがり、広がり抑制製品、改質アスファルト系シートを用いた防草対策』

『簡易な施工で高耐久な雑草抑制工法 「グラストップSLタイプ」』

『水上、水中ドローンを用いた点検』



フォーラムリーダー開会挨拶の様子



ピッチイベントの様子

四国地方フォーラム

02 建設技術講演会・第7回四国地方フォーラムピッチイベント

建設技術講演会・ピッチイベントを開催し、建設分野におけるDX新技術の紹介や、四国地方フォーラムのピッチイベント（第7回）を実施しました。ピッチイベントでは、宇和島市を始め4自治体のニーズに対して5企業よりシーズの提案が行われました。

日時 令和6年11月12日（火）
場所 愛媛大学 南加記念ホール（松山市）
参加者 自治体、企業、県など関係者（約170名）ハイブリッド形式
プログラム 建設分野におけるDX新技術の紹介

- ・映像を活用した3次元現場管理技術
- ・デジタルツインで実現する、防災・都市計画のDX など

四国地方フォーラム ピッチイベント（第7回）

〈ニーズ説明〉

- ・宇和島市、久万高原町、松前町、西条市

〈シーズ説明〉

- ・水上、水中ドローンを用いた点検
- ・AI橋梁診断支援システム
- ・委託、直営の両面の点検支援システム
- ・ドローンによる自動点検



ニーズ説明の様子



シーズ説明の様子

03 国土強靱化講演会・第8回四国地方フォーラムピッチイベント

国土強靱化講演会ピッチイベントを開催し、四国内における国土強靱化の取組に関する紹介や、四国地方フォーラムのピッチイベント（第8回）を実施しました。ピッチイベントでは、久万高原町のニーズに対して5企業よりシーズの提案が行われました。

日時 令和7年1月24日（金）
場所 愛媛大学 南加記念ホール（松山市）
参加者 自治体、企業、県など関係者（約442名）ハイブリッド形式
プログラム 国土強靱化講演会

- ・進む南予のインフラ整備
- ・肱川激特事業による堤防の完成
- ・新日下川放水水路の完成 等

四国地方フォーラム第8回ピッチイベント

ニーズ説明

- ・久万高原町建設課

シーズ説明

- ・AI 橋梁診断支援システム
- ・小規模施設（橋梁）の橋面舗装補修技術
- ・橋梁など鋼構造物40年の長期防食技術
- ・雑草自身が成長を止めてしまう雑草抑制工法
- ・小規模橋梁伸縮装置漏水対策



ニーズ説明の様子



シーズ説明の様子

04 南予地域防災・インフラメンテナンスシンポジウム 「南海トラフ巨大地震に備える」 ～社会インフラ整備、事前復興、そして群マネの推進による南予地域の強靱化～

南予地域防災・インフラメンテナンスシンポジウム「南海トラフ巨大地震に備える」が開催され、地震に備える事前復興や地域インフラ群の再生戦略マネジメント(群マネ)について議論が行われました。今後、南予地域の自治体、愛媛県、地元建設業協会、愛媛大学、国でワーキンググループ(WG)を設置し、事前復興や群マネを検討する予定です。

シンポジウムでは、総務大臣政務官の長谷川淳二議員による基調講演が行われ、南予地域の首長によるパネルディスカッションも実施されました。基調講演では、巨大災害に備えるための取り組みが紹介され、パネルディスカッションでは、地域のインフラ整備や事前復興の重要性について意見が交わされました。

また、国土交通省や愛媛大学、広島県からの話題提供が行われ、南予地域のインフラ整備の現状や、南海トラフ巨大地震に備えるための事前復興計画、群マネの推進による災害に強いまちづくりについての具体的な取り組みが紹介されました。特に、広島県での群マネの取り組みでは、現状の検討内容等の先進地での事例が共有されました。

このシンポジウムを通じて、南予地域の防災とインフラメンテナンスに関する重要な議論が行われ、今後の取り組みが期待されます。

- 日時** 令和6年9月7日(土)
- 場所** パフィオうわじま(宇和島市内)
- 参加者** 産官学民関係者(約200名)
- プログラム**
- 開会挨拶**
浅田 春雄(愛媛大学防災情報研究センター特定教/愛媛県建設業協会会長)
- 来賓挨拶**
豊口 佳之(国土交通省 四国地方整備局長)
- 基調講演**
巨大災害に備える
長谷川 淳二(総務大臣政務官 衆議院議員)
- 話題提供**
・進む南予のインフラ整備
江川 昌克(国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所 所長)
・南予地域最大の脅威・南海トラフ巨大地震に備える事前復興計画
山本 浩司(愛媛大学 防災情報研究センター 特定教授)
・群マネ(地域インフラ群再生戦略マネジメント)の推進による災害に強いまちづくり
池口 正晃(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 課長)
・持続可能な地域を目指した県と市町の連携・共同の取組について
～広島県での群マネの取組～
山崎 恭誉(広島県 土木建築局 技術企画課 主査)
- パネルディスカッション**
「南予地域を守る社会インフラ整備・事前復興・群マネの推進」
高速道路の整備、治水事業、事前復興への取組み、インフラメンテナンスの現状と課題
- コーディネーター
矢田部 龍一(愛媛大学 名誉教授)
- パネリスト
岡原 文彰(宇和島市長)、大城 一郎(八幡浜市長)、菅家 一夫(西予市長)、
清水 雅文(愛南町長)、西山 誠司(愛媛県 南予地方局 建設企画課長)
- 閉会挨拶**
岡 兵典(愛媛大学 防災情報研究センター 特定教授/愛媛県測量設計業協会会長)



長谷川議員基調講演の様子



池口公共事業企画調整課課長講演の様子



パネルディスカッションの様子

05 防災・インフラメンテナンス研修 in高知

南海トラフ地震への事前復興への取組みや、地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)の推進、橋梁点検に関して自治体職員向けに研修を実施しました。

研修では1日目【座学】、2日目【現場実習】を実施しました。

- 日時** 令和6年10月3日(木)～4日(金)
- 場所** 道の駅すさき多目的ホール(須崎市)
- 参加者** 高知県内自治体職員(26名)
- プログラム**
- 座学**
・高知県太平洋岸地域の強靱化に向けたインフラ整備推進への取組み
・高知県における事前復興まちづくり対応への動き
・須崎市における地下・地上一体型空間情報の活用による早期復旧の取組み
・群マネ(地域インフラ群再生戦略マネジメント)の推進による災害に強いまちづくり
・橋梁点検の実施に向けて
- 現地実習**
新技術の体験(ひびみつけ、遠隔点検システム、Dr.Bridge)



須崎市長挨拶の様子



座学の様子



現場実習(新技術体験)の様子

06 インフラメンテナンススキルアップ研修 in愛媛

橋梁点検結果から、診断、対策を行うための知識の習得と、判断できるスキルの習得、群マネの推進を目的とした研修を自治体職員向けに実施しました。

研修では1日目【座学】、2日目【現場実習】を実施しました。

- 日時** 令和6年10月10日(木)～11日(金)
- 場所** 研修会:テクノプラザ愛媛(松山市) 現地実習:横河原橋(東温市)
- 参加者** 愛媛県内自治体職員(28名)
- プログラム**
- 座学**
- ・群マネ(地域インフラ群再生戦略マネジメント)の推進について
 - ・橋梁点検・補修設計・設計、維持管理
- 現場実習**
- ・現場実習(橋梁点検LiDAR体験、ボールカメラ高所点検、簡易強度試験(コンクリートテスター))



座学の様子



現場実習(コンクリートテスター)の様子



現場実習(ボールカメラ)の様子

07 インフラメンテナンススキルアップ研修 in徳島

アスファルト舗装の点検から設計までの知識の習得と、直営点検に活用可能な新技術の体験、群マネの推進を目的とした研修を自治体職員向けに実施しました。

研修では1日目【座学】、2日目【現場実習】を実施しました。

- 日時** 令和6年11月12日(火)～13日(水)
- 場所** 研修会:徳島県職員会館2F(徳島市)
- 参加者** 現地実習:沖洲マリンターミナル駐車場(徳島市)
徳島県内自治体職員(30名)
- プログラム**
- 座学**
- ・群マネ(地域インフラ群再生戦略マネジメント)の推進について
 - ・アスファルト舗装の詳細調査と修繕設計、点検・診断損傷事例
- 現場実習**
- ・現場実習(直営点検で活用可能な舗装点検ツールグローバルアイズ、smartロメンキャッチャーFWD)



座学の様子



現場実習の様子

08 インフラメンテナンススキルアップ研修 in香川

道路附属物点検の基礎的な知識、直営診断を行うためのスキルの習得と、群マネの推進を目的とした研修を自治体職員向けに実施しました。

研修では1日目【座学】、2日目【現場実習】を実施しました。

- 日時** 令和6年11月26日(火)～27日(水)
- 場所** 研修会:坂出市役所2F会議室(坂出市)
- 参加者** 現地実習:瀬戸大橋記念公園(坂出市)
香川県内自治体職員(23名)
- プログラム**
- 座学**
- ・群マネ(地域インフラ群再生戦略マネジメント)の推進について
 - ・道路附属物点検の経緯と目的、実務、事例の紹介
- 現場実習**
- ・現場実習(点検の実務、非破壊検査手法の紹介)



座学の様子



現場実習(非破壊検査手法)の様子



現場実習(点検実務)の様子

九州フォーラム

平成30年1月17日に設立した九州フォーラムも既に7年が経過し、第10回ピッチイベントや第4回マッチングイベント及び市民参画イベントを開催しました。また、テクシニアーズも引き続き自治体からの「よろず相談」に対応してきました。

リーダー 日野 伸一
久留米工業大学 学長



01 「第10回ピッチイベント」 (インフラメンテナンス市区町村長会議 九州・沖縄ブロック会議との合同開催)

インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムと九州・沖縄ブロック会議による初の合同開催となる「第10回ピッチイベント」を開催し、インフラメンテナンスの重要性と必要性、市区町村レベルでの取り組みと課題、国や土木学会との連携・支援などについて、九州各県代表首長等で意見交換や情報共有を行いました。

今回のピッチイベントは三部構成とし、第I部では、「総力戦で取り組むインフラマネジメント～持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて～」、「三条市におけるインフラの包括的民間委託の取組」について講演された。第II部では市区町村長会議にて、九州各市(熊本市、日田市、杵築市)の取り組み紹介及び首長等による意見交換会を行いました。

第III部では、第II部の自治体の意見を受けて、「どうする?群マネ」と題して国交省、学識者、先進事例自治体によるパネルディスカッションが行われ、「挑戦しようとする自治体職員を支援する環境づくりが必要」と総括された。

今回、フォーラムと市区町村長会議を合同で開催したことで、先進事例の取り組みや「群マネ」のモデル地域の取り組み状況や成果についての聴講は参考となる一方、地域によって維持管理を取り巻く環境は大きく異なることを再認識できました。

今後の課題としては、「群マネ」「包括的民間委託」の展開を拡大するにあたり、参考事例をもとに、各市町村に適合できるようにカスタマイズする提案力が必要であり、実務的な留意点について掘り下げて研究する必要があります。

日時 令和6年10月9日(水) 13:00~17:30
場所 福岡国際会議場
参加者 会場参加:164名、WEB参加:314名 計478名
プログラム **開会の挨拶**
大西 一史(市区町村長会議 九州・沖縄ブロック幹事/熊本市長)(ビデオメッセージ)
日野 伸一(九州フォーラムリーダー/久留米工業大学 学長)
青野 正志(国土交通省 九州地方整備局 企画部長)
関 信郎(内閣府 沖縄総合事務局 企画調整官)
〈第一部〉
総力戦で取り組むインフラマネジメント～持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて～
岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)
インフラの包括的民間委託(三条市の取組事例)
大坂 市郎(新潟県 三条市 建設部建設課 課長補佐)
〈第二部〉
第3回インフラメンテナンス市区町村長会議 九州・沖縄ブロック会議
● 司会
飯干 修一(熊本市 都市建設局 土木部 土木総務課長)
● ファシリテーター
松村 政秀(熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授)
● 登壇者(一部抜粋)
棕野 美智子(日田市長)
松本 哲治(浦添市長)
木下 義昭(ライモン九州・沖縄ワーキンググループ長)
(1)九州各市の取組み発表
並河 洋一(熊本市 道路保全課長)
高倉 実(日田市土木課長)
平田 勝宏(杵築市 上下水道課 主幹)
(2)意見交換会～群マネや包括的民間委託の導入検討に向けて～



日野フォーラムリーダーによる開会挨拶の様子



基調講演の様子(岩井 聖氏)



基調講演の様子(大坂 市郎氏)

九州フォーラム

〈第三部〉
パネルディスカッション
『どうする?群マネ』～初めての取組を模索する中での光～

● ファシリテーター

福島 治(一般社団法人ツタワールドボク 副会長)

● 登壇者

岩井 聖(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画調整官)

寺尾 幸太郎(国土交通省 九州地方整備局 企画部 事業調整官)

森尾 宣紀(長崎市 中央総合事務所 地域整備1課)

大坂 市郎(新潟県 三条市 建設部建設課 課長補佐)

松田 浩(長崎大学 名誉教授)

閉会の挨拶

田中 清(九州フォーラムサプリーダー/一般社団法人建設コンサルタンツ協会

九州支部 支部長)



パネルディスカッションの様子

02 第4回マッチングイベント

九州フォーラムでは、これまでに、ピッチイベントや自治体へのヒアリングを通じて、インフラメンテナンスにおける課題・問題点について意見収集を行ってきました。

今回、民間事業者などが保有する最新の技術やノウハウを持ち寄り、シーズ技術を広く共有し、技術の発掘と社会実装、連携の促進を図るマッチングイベントを開催しました。

○募集テーマ(ニーズ)

①小規模(橋長15.0m未満程度) 橋梁にも効果的な点検・診断技術等

②小規模橋梁における橋梁補修方法(DIY施工も可能など)、材料等

日時 令和7年2月7日(金) 13:15~16:45
場所 (一社)建設コンサルタンツ協会九州支部
参加者 Web 450名

プログラム **開会挨拶**

田中 清(インフラメンテナンス国民会議 九州フォーラムサプリーダー)

話題提供

『小規模橋梁における簡易補修による長寿化』

榎原 引貴(福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 准教授)

募集テーマ(ニーズ)の説明

猪狩 名人(九州地方整備局 企画部 環境調整官)

シーズの紹介(質疑応答含む)

『橋梁点検・診断等に関する技術』

①「Panoca」:株式会社IHIインフラシステム

②「モビリティによる橋梁点検・スクリーニング」:古河産業株式会社

③「橋守AIヘルパー」:大日本ダイヤコンサルタント株式会社

『補修工法に関する技術』

①「ニンジャシール(橋梁伸縮装置補修工法)」:株式会社ガイアート

②-1「ビービーキャップ(シリコン製防錆ボルトキャップ)」

②-2「J-ティフコム(超緻密高強度繊維補強コンクリート)」:美和グループ(株式会社ビー・ビー・エム)

③「Znカートリッジ工法(内部鋼材腐食抑制技術)」:ピーエス・コンストラクション株式会社

④「SMジョイント(ゴム劣化取替工法)」:山王株式会社

⑤「CAMシールNEOプラス(浸透防水型薄層表面処理工法)」:東亜道路工業株式会社

閉会挨拶

寺尾 幸太郎(九州地方整備局 企画部 事業調整官)



田中フォーラムサプリーダーの開会挨拶の様子



シーズ技術の発表の様子

03 市民参画イベント

九州フォーラムでは、市民参画イベントとして「マインクラフトによるインフラメンテナンス」を開催しました。

マインクラフトを利用して作成した阿蘇立野ダムと、現実の阿蘇立野ダムを行き来しながらプログラミング知識を習得するとともに、インフラメンテナンスの必要性、重要性を考える機会を提供しました。また、ダムに設置されている様々な計器類や、ダム管理室内の見学を通してダム維持管理の実態を紹介し、マインクラフト内で補修工事を実演しました。

日時 令和7年3月22日(土) 10:00~15:00
場所 阿蘇立野ダム管理所
参加者 小学生10名(保護者が各1名同伴)
プログラム マインクラフトで阿蘇立野ダムができるまで
実際の阿蘇立野ダムができるまで(タイムラプス)
阿蘇立野ダム見学
天端
監査廊内
管理所内
ダムの維持管理について
実際の維持管理紹介
マインクラフト内での補修工事



プログラミングの勉強の様子



管理用通路の見学の様子



ダム直下での記念撮影の様子

沖縄フォーラム

沖縄フォーラムは、平成30年3月5日に準備会での議論のうえ、平成30年3月22日に設立しました。自治体が抱えるインフラメンテナンスの課題を克服するために、産学官民が丸となって解決に取り組んでまいります。

リーダー 有住 康則
琉球大学 名誉教授

01 インフラメンテナンス国民会議沖縄フォーラム
建設技術マッチングイベント

本イベントは、市町村道路管理者が参加し多くの技術を見て頂くことで、インフラメンテナンスの意識向上を図るとともに、ニーズのある技術については、採用検討の場としての提供を行います。

マッチングイベント参加企業は、沖縄フォーラムに登録してもらうことで、企業会員の増加も図ります。
沖縄県道路メンテナンス会議と同時開催し、道路管理する地方自治体職員に紹介しました。

日時 令和6年7月17日(水) 12:00~16:00
場所 沖縄総合事務局 那覇第2地方合同庁舎2号館会議室
参加者 約70名(沖縄総合事務局、地方自治体、民間企業等)
プログラム 挨拶
有住 康則(琉球大学 名誉教授)
関 信郎(沖縄総合事務局 企画調整官)
マッチングイベント
(1)各技術のプレゼンテーション
※沖縄総合事務局、地方自治体対象
(2)各ブースにおいて技術紹介
※沖縄総合事務局、地方自治体、民間業者(コンサルタント、建設業者)対象



開会挨拶の様子



技術紹介状況の様子



各ブースにおける技術説明状況の様子

第8回インフラメンテナンス大賞

インフラメンテナンス大賞は、日本国内におけるインフラメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰し、好事例として広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的として実施するものです。

第8回は、8省（総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省、国土交通省）が所管する施設について302件の応募があり、45件の受賞者を決定し、令和7年1月16日及び27日に表彰式を実施しました。

日時・場所 内閣総理大臣賞、各省大臣賞、特別賞表彰式 令和7年1月16日（木）

首相官邸2階 大ホール
特別賞、優秀賞表彰式 令和7年1月27日（月）
中央合同庁舎3号館（国土交通省）10階共用会議室

プログラム 内閣総理大臣賞、各省大臣賞表彰式

石破 茂（内閣総理大臣）
高見 康裕（国土交通大臣）
長谷川 英晴（総務大臣政務官）
庄子 賢一（農林水産大臣政務官）
古賀 友一郎（経済産業副大臣）
小林 史明（環境副大臣）
本田 太郎（防衛副大臣）
家田 仁（インフラメンテナンス大賞選考委員 委員長/ 政策研究大学院大学 特別教授）
会場参加者 約60名
特別賞、優秀賞表彰式
家田 仁（インフラメンテナンス大賞選考委員 委員長/ 政策研究大学院大学 特別教授）
会場参加者 約100名



石破茂 内閣総理大臣による祝辞



高見康裕 国土交通大臣政務官による挨拶



家田仁 選考委員会委員長による講評

第8回インフラメンテナンス大賞受賞者

表彰の種類	省	部門*	分野	応募者 （代表企業・団体名）	応募案件名
内閣総理大臣賞	-	-	水道	Fracta Japan 株式会社	上下水道事業のDX：ビッグデータ×AIによる管路リスクの予測診断
情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞	総務省	ア	情報通信関連施設	NTTデータ株式会社	業務DXロボットugo（ユーゴー）を使ったデータセンター設備点検業務の自動化/遠隔化
総務大臣賞		ウ	道路	株式会社 伸浩技建	トンネル覆工展開図自動作成システム
農林水産大臣賞	農林水産省	ア	農業農村	筑後川下流域農業開発事業促進協議会	C A P S （先行排水情報共有システム）の導入によるクリーク先行排水の広域化促進
		イ	農業農村	香川用水土地改良区	地域住民と一体となった農業水利施設の維持管理
		ウ	水産基盤等	大石建設株式会社	サブマリンクリーナー工法による水質環境に配慮した係留施設や水域施設のメンテナンス
経済産業大臣賞	経済産業省	ア	電力	中国電力ネットワーク株式会社	Mobile Mapping System を活用した配電設備の点検業務高度化による効率化
		ウ	ガス	東邦ガスネットワーク株式会社	ガス用ダクトail鋼鉄管を対象とした非開削入替工法「STREAM 工法」とその関連技術の開発
国土交通大臣賞	国土交通省	ア	道路	パシフィックコンサルタンツ株式会社	三衆市 社会資本に係る包括的維持管理業務（嵐北地区）
		イ	道路	R E I M産学連携コンソーシアム	KOSEN 型産官学プラス地域共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築
		ウ	港湾・海岸	東洋建設株式会社	港湾コンクリート構造 高機能型塗装「ワンダーコーティングシステムW-MG」
環境大臣賞	環境省	イ	廃棄物処理	特定非営利活動法人 最終処分場技術システム研究協会	廃棄物最終処分場の機能検査者育成
防衛大臣賞	防衛省	イ	自衛隊施設	ニチレキ株式会社	耐流動性を高めた舗装技術（エプロンの補修事例）
特別賞	総務省	ウ	情報通信関連施設	エイチ・シー・ネットワークス株式会社	大津石山テレビ中継局にて新工法による短時間での送信アンテナ更新工事
	文部科学省	イ	文教施設等	学校法人玉川学園総務部管財課	教育現場とインフラメンテナンスの連携による技術力向上
	農林水産省	ウ	農業農村	大分県土地改良事業団体連合会	新技術（ドローン）を活用した農業水利施設の管理省力化検討
	経済産業省	ウ	電力	九州電力株式会社	特別高圧ケーブルのオンライン遠隔常時監視技術の確立
	国土交通省	イ	河川・ダム・砂防・海岸	別所砂留を守る会	先人たちが築いた“砂留”のメンテナンスを通じて土砂災害から地域を守る
	環境省	イ	自然公園等	株式会社ジェイエムエス	草津白根山殺生河原火山ガス防災システムのメンテナンス取組
	防衛省	ウ	自衛隊施設	ジオ・サーチ株式会社	地面からスキャンし正確な地下の3次元デジタルデータを提供「地下インフラ3Dマップ」
優秀賞	農林水産省	ア	農業農村	各務用水土地改良区	土地改良区インフラメンテナンス15年の模索と挑戦
		ア	農業農村	赤城西麓土地改良区	ボールポイントロッドとマーカークレーティングシステムを活用したバルブの操作性向上の取組
		イ	農業農村	寺谷用水土地改良区	430年にわたり「寺谷用水」を維持管理してきた農民共同体「井組」の歴史と未来への継承
		イ	農業農村	宮川用水土地改良区	インフラメンテナンスを人的資本経営で向上（人材戦略マネジメントからインフラメンテナンスへ）
		イ	農業農村	滋賀県土地改良事業団体連合会	農業用ため池の適正な管理と保全に向けたサポート体制の構築
		イ	水産基盤等	一般社団法人 漁港漁場新技術研究会 衛生管理研究部会	荷さばき所の機能保全点検マニュアルの作成及びLCC 低減に資する製品の開発
		ア	電力	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	宇宙開発等電力インフラを支えるトライアングル体制構築と保安高度化・省力省人化両立
	経済産業省	ウ	ガス	大阪ガスネットワーク株式会社	旧管入替工事に伴う非開削装置の開発
		ア	道路	玉名市役所 土木課	予防保全型の橋梁メンテナンスへの早期移行を実現した現場主体の構築モデル（玉名市モデル）
	国土交通省	ア	道路	公益財団法人滋賀県建設技術センター	360°カメラとウェアラブルカメラによる地方自治体の施設管理の効率化・高度化
		ア	鉄道	東日本旅客鉄道株式会社	PowerAutomate を活用した整流器・蓄電池スマートメンテナンス効率化
		ア	鉄道	株式会社日本線路技術	AI活用等による主要線路設備全ての劣化状態自動判定の実現
		ア	港湾・海岸	東亜建設工業株式会社	水中ドローンを活用した岸壁調査工事における効率化の取組
		イ	公園	一般財団法人公園財団 平城宮跡管理センター	おぎの美術館
		イ	道路	岡山道路パトロール隊	産官学で取り組む『岡山道路パトロール隊』
		イ	河川・ダム・砂防・海岸	株式会社内山建設	MineCraft ×防災 - 遊びから学ぶインフラ未来創造プロジェクト
		イ	水道	仙台市水道局	データから未来を導く ～AIを活用した将来の「ヒト」「モノ」「カネ」の見える化～
		ウ	道路	株式会社構研エンジニアリング	トンネル点検模擬訓練システム T S T
		ウ	道路	株式会社 愛亀	道路維持における安価な道路損傷度調査技術の開発
		ウ	道路	日本工営株式会社	東京国道管内における緑地管理DXの推進
		ウ	鉄道	東日本旅客鉄道株式会社	踏切用再生リチウムイオン蓄電池の導入
		ウ	鉄道	西日本旅客鉄道株式会社	省力化施工及びメンテナンス作業性向上を目指した盛土ホームドア基礎の開発
		ウ	鉄道	東日本旅客鉄道株式会社	視覚障害者誘導タイルの簡易修繕
		ウ	河川・ダム・砂防・海岸	太平洋セメント株式会社	ダクトalフォームおよびRFID 腐食検知システムによる河川護岸の補修・維持管理の高度化
		ウ	空港	株式会社ガイアート	インフラメンテナンス国民会議で拡がるセルフ予防保全「ニンジャシール工法」

※凡例 ア-メンテナンス実施現場における工夫部門 イ-メンテナンスを支える活動部門 ウ- 技術開発部門



【写真提供】 山崎エリナ (やまさき・えりな)

写真家 兵庫県神戸市出身。パリを拠点に3年間の写真活動に専念する。40カ国以上を旅して撮影を続け、エッセイを執筆、写真集多数出版。
 2018～2024年は「山崎エリナ写真展 インフラメンテナンス」を北海道、福島、新潟、大阪、東京ビッグサイト(社会インフラテック)など全国各地で開催。
 橋梁、トンネル、道路のメンテナンス現場を撮影した写真による広報活動は、第3回インフラメンテナンス大賞 優秀賞を受賞。
 2022年度にはこれまでの取り組みの成果が評価され、土木学会のインフラメンテナンス 特別賞を受賞。
 土木関連写真集に『インフラメンテナンス』、『Civil Engineers 土木の肖像』、『トンネル誕生』、『鉄に生きる』、『アクアライン～知られざる姿～』、『ローカルゼネコンの素顔』、『東京下水道 設備創造』などがある。
 現場の技術者たちへのエールを込めて作詞作曲・歌を担当した曲『この空の下で』(ヤマサキエリナ)が世界で音楽配信中。